

悠久同窓会会誌

悠久

悠久同窓会創立50周年記念号

阿南高専悠久同窓会



2019・春
第51号

2019年2月20日発行

発行 阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017 阿南市見能林町青木265
印刷 (有)山田印刷所



悠久同窓会創立50周年記念式典・記念講演会の様子 平成30年11月10日 於ホテルクレメント徳島

目次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより

阿南高専の概況・学生の活躍・学寮（明正寮）便り・一般教養便り
機械コース便り・電気コース便り・情報コース便り・建設コース便り
化学コース便り・広報情報室より・専攻科より

悠久同窓会 創立50周年記念式典
会員だより

近況短信・勝手に書きます！言いたい放題名作映画紹介（第4回）
赤い手帖（28）・平成30年日記・母校校庭の樹木の散髪
建設コースへの出前講座に参加して

現役クラブだより

〈体育部〉 弓道部・テニス部・陸上競技部
ラグビーフットボール部・水泳部・サッカー部
〈文化部〉 吹奏楽部・茶道部・プログラミング同好会

平成30年悠久同窓会総会

支部だより

東京支部

総会のお知らせ



ご挨拶

名誉会長

寺沢 計二

悠久同窓会会員の皆様におかれては、ますますご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨秋には悠久同窓会 50 周年記念式典が盛会のもと挙行されましたが、本校を卒業された皆様が各界において活躍されていることを改めて実感致しました。また、式典の企画から準備、運営に当たられた実行委員会の皆様には心より敬意を表したいと思います。

この50周年記念式典への準備の過程で、兼松会長、安平実行委員長はじめ皆様と様々な意見交換を行い、同窓会活動と本校の教育研究との連携、協力の強化や若年会員の掘り起こしなどに関して、学校サイドの立場から色々とご提案や、他高専での同窓会活動事例を情報収集ご紹介させていただいたところ、早速色々な取り組みを始めていただきました。

式典に参加された皆様はご案内のとおり、式典の司会進行役に現役学生を抜擢していただくとともに、式典当日、本校で開催中の高専祭「蒼阿祭」に悠久同窓会ブースを設け、同窓生が活躍している企業のご紹介や、歴代の卒業アルバムなどの展示などを行っていただきました。現役世代にとってこれまでほとんど関心を持つことがなかったであろう悠久同窓会の存在に触れる大変良い機会になったと思います。

また、式典後においても、この50周年を期に今まで以上に悠久会員各位と学校活動とのタイアップを強化すべく、同窓会活動が盛んな高専の視察を行うとともに、後述する地域連携の強化策に同窓会としても積極的に関与していけないか、というような話をいただいております。私ども教職員、そして現役学生にとって大変心強く、また大いなる期待を膨らませているところです。

さてここで、誌面を借りて阿南高専の近況をご報告させていただきますと存じます。

昨年の悠久会誌でもご報告させていただいたところですが、ここ2、3年、高専を取り巻く環境が大きく好転し、非常に強い追い風が吹き始めています。その大きな背景として、長く続く景気の好転に伴う求人市場における人材難に加え、人工知能（AI）やあらゆるモノがインターネットにつながるIoT（Internet of Things）技術、ロボットなどの最先端技術により世界レベルで産業構造や社会生活までもが劇的に変わろうとしている今日、若くして高度で実践的な知識と技術を身につけた「高専卒業生」という存在が、現代社会が求める技術人材像にピッタリ入り、産業界が改めて注目し始めた、ということではないかと分析しています。長く続いてきた大卒者の学歴横並び一斉採用慣行が、グローバル人材競争に晒されて揺らぎつつあることも、即戦力の実力を備えた高専卒業生にとって追い風と

なっていると思われます。

こうした中、この春社会に出る卒業生は、5年前の学科再編に伴う創造技術工学科、1学科5コース制の第1期生ですが、平均求人倍率が何と約30倍にも達しています。新設の化学コースの就職、進学状況も極めて良好で、地元大塚グループ各社や日亜化学工業をはじめとする県内外有力企業への就職、旧帝大などを含む国立大学への進学が内定しています。

また、予算面ではこれまで厳しい政府の財政事情を背景に予算の一律削減を余儀なくされる状況が長らく続き、こうした中、阿南高専としては老朽化の著しかった校舎や学寮の改修を何とか着実、計画的に進めてきたところでしたが、このたび阿南高専がこれまで地域において果たしてきた人づくりの実績や地方創生への貢献の期待を背景に、実習工場の改修予算が昨年暮れの国の予算編成において認められました。実習工場は今更言うまでもなく、学生が工作機械や溶接などの実習を通じ、ものづくりの現場で即戦力として活躍できる技術実践力の基礎を身につける場ですが、ロボットやIoTなどの最新技術の急速な変化にも対応しつつ、より一層高専が地域産業に貢献していけるよう、その機能の大幅な強化を図ることとしています。具体的には、老朽化していた実習工場を環境面、安全面、作業効率の確保などの観点から改修するとともに、設計から加工、組み立てなどの試作プロセスを容易にする3Dプリンターや小規模汎用工作ロボットなどを導入し、地域企業の方々と教員、学生が交流、協力して製品試作など課題解決に取り組める開放型ラボ機能を備えた工場へと衣替えるものです。LED、農水産業などの地域産業の強化に寄与できる先端設備・機器の導入も計画しており、来年度末までに、地域の皆様にお披露目ができるよう、鋭意改修工事の工程や、整備すべき設備・機器の詳細を固めつつあるところです。皆様にも積極的な活用とともに、協働作業を通じて学生の育成にもご協力を賜ればと願っています。

最後に、学生たちの活躍についてご報告します。

体育系クラブにおいては、硬式テニス部が全国高専体育大会において2年連続で団体優勝という快挙を成し遂げました。個人種目では女子硬式テニス、水泳で優勝、陸上競技でも上位入賞を果たすなど大活躍しました。また、クラブ活動ではありませんが、5M 武知虎南君がサーフィンの全日本グランドチャンピオンゲームスで優勝、アマチュア日本一の栄冠に輝き、2020 東京オリンピックに向けた強化指定選手に選ばれています。

高専の各種コンテストについては、昨年この誌面でもご案内させていただいた全国高専プログラミングコンテストが10月にアスティとくしまにおいて阿南高専の主管で開催されました。本校から全国最多の4チームが出場、そのすべてが入賞を果たし、課題部門では第2席の優秀賞、競技部門では第3位となるなど輝かしい成績を挙げてくれました。

また本年10月には高専ロボコンの四国大会が阿南高専で開催されます。四国地区では近年、香川高専高松と詫間が全国大会で常に優勝を競うレベルの強豪として立ち塞がっており、本校チームが両国国技館での全国大会へ勝ち進むことはなかなか容易ではありませんが、どうか皆様、応援のほど宜しくお願い致します。



ご挨拶

同窓会会長

兼 松 功

春光が天地に満ちて万物すべてが精を受ける候、悠久同窓会会員の皆様方には益々御健勝の事とお喜び申し上げます。

平素は本会運営におきまして一方ならぬ御協力を賜っております事に衷心より御礼申し上げます。

本年も米中の貿易摩擦に端を発した世界経済の不安要因の拡大から、年当初より金融市場が波乱のスタートとなりました。

徳島県内でも輸出関連企業を中心に円高による業績の悪化と、外国人労働者の受け入れに関する法整備の遅れによる労働力不足、10月からの消費税増税による消費マインドの低下予想と全業種において不透明な事業環境となっております。

現役世代の会員の皆様方は本年も尚一層気を引き締めて業務に精励頂きたいと存じます。

さて近況ですが、本同窓会誌が『悠久同窓会創立50周年記念号』となっておりますように昨年11月10日(土)にホテルクレメント徳島にて、本会の創立50周年記念式典・記念講演会そして祝賀会を開催いたしました。

実行委員長に土木工学科第7回卒業生の安平剛之氏(小松島商工会議所会頭)に就任をお願いし、平成29年秋口より毎月下旬に徳島市内で実行委員会を開催し、記念式典・講演会・祝賀会・前日のゴルフコンペと各担当者を中心として企画立案に始まり実働スタッフとしてお骨折りを頂きました。

当日の内容は本誌に各担当者より詳細が掲載されていると存じますが、前日実施されたゴルフコンペには43名、式典等は実数227名ご参加頂きました。

50周年記念寄付金は225名の会員からお振込を頂き心

から感謝申し上げます。

記念式典は来賓を減らし卒業生本意のプログラムになるよう詳細を詰め、大会のスローガン「切り拓こう！ 悠久の未来を」にふさわしい内容で実施できたと安堵いたしております。

大切な案内を差し上げたいと存じますが、現在卒業生が使用しております(厳密には購入なさった方だけですが)『悠久同窓会 会員名簿』は平成23年12月に発行された名簿であります。

7年が経過し住所等のデータが古くなり本同窓会誌の送付、各卒業年度の同窓会開催案内状を含め各種案内を差し上げた場合、転居先不明で多くの発送物が帰ってまいります。

昨年の秋に、名簿作成業者:大分県の小野高速印刷(株)より皆様方の元に『名簿 発行に関して』という往復ハガキが届いていると存じます。

住所等のデータの変更等のある方、また『悠久同窓会 会員名簿』を是非購入したい方は、案内では締め切りが昨年末になっておりましたが本年の4月中旬まで間に合いますのでお申し込み頂ければ幸いです。

返信のハガキが不明な方は、小野高速印刷(株) Tel 0120-73-7288 Fax 0120-81-2299まで連絡し、「阿南高専の同窓会会員名簿に関して!」とおっしゃって頂ければ対応して頂けるようお願いしてあります。

一人でも多くの会員の正確な名簿を作成し、これからの同窓会活動に役立てて参ります。

本年も同窓会総会が8月12日(月)受付10:30より母校で開催されます。

平成27年より総会前の11:00より各分野で活躍なさっている卒業生の講演会を実施し、総会後は名誉教授会と合流して昼食会(会費無料)を実施いたしております。

アルコールが出ませんので同窓生を誘ってお車で気安く御参加下さい。(出席時は兼松:090-1001-3583まで連絡)

本年度総会の詳細は本誌の巻末に掲載されていると存じますので是非来校頂き、旧知の先輩後輩方と懐かしの恩師を囲みながら、現役の教職員の方々から母校の近況をお聞き下さい。

結びとなりましたが会員皆様方のご健勝ご多幸祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。



平成30年11月10日に開催された阿南高専悠久同窓会 創立50周年記念式典での様子

学 校 だ よ り

阿南高専の概況

教務主事

坪井 泰士

悠久同窓会員の皆さま、新春のおよろこびを申しあげます。

平成30年1月からの本校の概況をお知らせします。

平成30年3月には、本科151名、専攻科11名が本校から社会へと羽ばたきました。

本科151名のうち92名が就職（求人倍率24.5倍）、59名が進学でした。学生らの努力はもちろんですが、社会から高い評価を得られているのは、悠久同窓会員の皆さまによるご理解とご支援の賜物です。重ねてお礼申し上げます。

平成30年4月には化学コース5年生を含め、全学年が創造技術工学科学生となりました。先述のように、就職においては化学コース卒業生も含めて企業から切望していただいています。阿南高専の新しい時代がほんとうにはじまったという感を強くしています。

複数の専門コースが連携した卒業研究、同じく複数コースの学生が協同するPBLである「共同教育」も定着しています。また、新たに国立高専機構の「平成30年度KOSEN（高専）4.0イニシアティブ」に採択された「トランスフォーマティブ・ラーニングを通じた未来創造型エンジニア育成プログラム」では、アクティブ・ラーニング型授業を拡張し、学生生活の様々な場面でコンピテンシーの成長を促します。専門性の異なる他者との協同の中で自らの専門性を発揮し融合させられる「未来創造型エンジニア」を育成します。

平成30年12月には、大学改革支援・学位授与機構による機関別認証評価を受けました。これは、学校教育法にもとづき教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関して実施されるものです。その結果公表はまだですが、これまで本校運営の適切さが十分に確認されたものと理解しています。今後は、同評価において確認された点について、よりよく学生を育む高等教育機関として進化し続けてまいります。

今年が、皆さまとそして阿南高専にとってより良き一年となりますように。

※阿南高専ホームページ 学校紹介－出版物に諸情報を掲載しています。

学生の活躍2018

学生主事

錦 織 浩 文

悠久同窓会創設50周年、おめでとうございます。平成30年11月10日（土）の祝賀会には、本校学生会の現役学生も参加させていただき、まことにありがとうございました。学生たちは先輩の方々とお会いし、話をし、貴重な経験をさせていただきました。翌11日（日）本校の蒼阿祭には、悠久同窓会のブースを構え、歴代の卒業アルバムを置いてお集まりくださり、卒業生にとって、また教職員にとって懐かしい空間が生まれました。加えて、卒業生の方々にはご自分の会社紹介もしていただき、今までにない新鮮な意義が付加された蒼阿祭となりました。ここに謹んで御礼申し上げます。

さて、本校学生の今年度の活躍をここで少し紹介いたします。

平成30年10月27日（土）～28日（日）、アスティとくしまにて、全国高等専門学校第29回プログラミングコンテストを開催し（阿南高専主管）、盛大成功のうちに終了しました。阿南高専からは課題部門に2チーム、自由部門1チーム、競技部門に1チームの計4チームが出場し、出場した4チーム全てが受賞という快挙を成し遂げました。ご報告方、後援、協賛いただきました関係各位、来場いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

課題部門 優秀賞（第2席）

日立製作所企業賞 「やまおくのほそみち」

さくらインターネット企業賞 「Star Gallery」

自由部門 特別賞（ベスト5）「サーモマイスター」

競技部門 第3位

高専ロボコン2018 四国地区大会は、平成30年10月7日（日）、香川高専高松キャンパス第一体育館において開催されました。ペットボトルを8つのテーブルに向けて投げて立てる「Bottle-Flip Cafe（ボトルフリップ・カフェ）」が競技テーマでした。本校からは「鬼阿島（おにあしま）」と「C-TRUSS（シトラス）」の2チームが出場しましたが、両チームとも予選を突破できませんでした。来年度は、2019年11月3日（日）、阿南高専での開催となります。

全国高等専門学校デザインコンペティション2018（デザコン2018 in 北海道）は、11月10日（土）～11日（日）、釧路高専主管で釧路市観光国際交流センターにて開催されました。今年度本校からは構造デザイン部門に2チームが参加しました。両チームとも途中で崩壊することなく最後まで善戦しましたが、入賞はかないませんでした。

クラブ活動体育局も活躍しました。成績の一部を紹介します。

○徳島県高等総合体育大会（6月）

水 泳 男子100mバタフライ 優勝 奥田真也（3M）

男子200mバタフライ 優勝 奥田真也（3M）

- 陸上 男子棒高跳 第1位 谷 知篤 (2C)
- 徳島県高等学校選手権大会 (6月)
- 水泳 男子100mバタフライ 優勝 奥田真也(3M)
男子200mバタフライ 優勝 奥田真也(3M)
- 四国地区高等専門学校体育大会 (7月)
- 水泳 男子400m自由形 優勝 溝木隆太(5I)ほか
陸上 団体 総合優勝(三連覇) ほか
テニス 男子団体戦 優勝(五連覇) ほか
ソフトテニス 団体戦 準優勝 ほか
バドミントン 女子ダブルス 準優勝 ほか
卓球 女子ダブルス 準優勝 ほか
- 四国地区高等学校体育大会 (7月)
- 水泳 男子100mバタフライ 第2位 奥田真也(3M)
男子200mバタフライ 第2位 奥田真也(3M)
- 全国高等専門学校体育大会 (8月)
- テニス 団体戦 優勝(二連覇)
- 水泳 男子800m自由形 第1位 溝木隆太(5I)
男子200mバタフライ 第1位 奥田真也(3M)
男子100m背泳ぎ 第1位 奥田真也(3M)
- 陸上 女子100mハードル 第2位 新居鈴菜(3C)
男子砲丸投 第2位 梶野晃生(4E)
男子三段跳 第2位 谷 亮磨(4C)
- 日本高等学校選手権水泳競技会(インターハイ) 出場(8月)
- 水泳 男子100mバタフライ 奥田真也(3M)
男子200mバタフライ 奥田真也(3M)
- 全国国公立大学選手権水泳競技大会出場(8月)
- 水泳 男子400m自由形 溝木隆太(5I)
- 徳島県高等学校新人陸上競技大会(9月)
- 陸上 男子フィールド総合 第1位 ほか

クラブ活動ではありませんが、アマチュアサーファー日本一を決める全日本グランドチャンピオンゲームスのメンズオープン(19~34歳)で5M 武知虎南くんが初優勝を果たしました。徳島県出身者が本大会を制したのは初のことです。

その他、今年度発足した愛好会、eスポーツ研究会の一人として、3I 増田大樹、神原太陽、2I 樫口智紀の3名が、第1回全国高校eスポーツ選手権の予選を突破し、2019年3月23日(土)、幕張メッセで開催される決勝大会に出場することになりました。eスポーツは徳島県も力を入れているところであり、今後私たちがeスポーツを目にする機会はますます増えていくものと思われます。

いろいろな場面で学生が活躍できるよう教職員一同支援していきます。今後ともご理解、ご協力、よろしく願い申し上げます。



学寮(明正寮) 便り

寮務主事

中村 雄一

悠久同窓会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。また、悠久同窓会設立50周年、誠におめでとうございます。昨年度から引き続き寮務主事を務める電気コースの中村です。今年度の寮務は、副寮務主事：加藤研二先生(建設コース)、寮監：松尾俊寛先生(一般教養)、寮務主事補：安田武司先生(機械コース)、藤原健志先生(電気コース)、太田健吾先生(情報コース)、一森勇人先生(化学コース)、寮務係長の桑村憲治さんと係員2名、学寮指導員2名の体制で取り組んでいます。

さて、本年度4月には新入寮の1年生95名(男子76名、女子19名)と留学生2名を含め387名で明正寮がスタートしました。昨年度後期に行われていました1号館3階の改修工事が完了し、このフロアには45名が入居しました。1号館3階は各居室を寝室部分と学習机部分に分け、寝室部分にはロフトベット導入し、スペースを効率的に使用できるよう工夫しました。また、共有スペースを広くとり、アクティブラーニングなどが行える学習スペースを設けました。この学習スペースでは毎晩学生達が互いに教え合っている様子が見られます。

学寮施設の老朽化が進んでいます。また近年、女子学生の増加に伴い女子の入寮希望者も増えつつあり、女子寮の受入れ人数に余裕がない状況となっています。そこで施設更新および女子寮の拡張のため昨年8月下旬から今年2月末までの予定で5号館の全面改修工事が行われています。5号館も1号館3階のデザイン・コンセプトを引き継ぎ、アクティブラーニングが行える学習スペースを設けています。今後も学寮施設・環境の改善のため、改修予算への申請を計画的に行っていきます。

寮生一人一人が寮を良くするために自身で考え・行動できるよう指導を行っています。役員寮生や各委員会の寮生が先導してアイデアを出し合いながら環境改善に努めてきています。昨年の学寮便りでも紹介させて頂きましたが、ゴミ処理方法の改善のための取組みを進めています。約400名の寮生が生活する学寮では大量のゴミが発生します。そのゴミ処理のため毎年多くの経費がかかっています。環境委員が中心となり寮内のゴミ分別方法・収集方法などを改善し、ゴミ処理経費削減に大いに成果をあげています。今後はゴミの資源化も検討し、「学生寮ごみゼロ宣言」の実現を目指していきます。この取組みは高専機構本部からも注目されており、高専機構発行の環境報告書2018において紹介されました。

今年度もいままでに寮祭、学寮特別講演会や教養講座など多くの行事や出来事がありました。悠久同窓会設立50周年にちなみ、関連する話題を二つ紹介させていただきます。一つ目は昨年6月27日に開催された1年寮生対象の

学寮特別講演会において、機械工学科1期生で本校地域連携テクノセンター特命教授の宇野浩先生に「一期生としての技術者の歩み」の題目でご講演いただきました。阿南高専創立当時の写真を交え、まだ施設・設備が整っていないため苦労したことや社会から高専の認知度が低い状況から創業者のように開拓する心意気を持っていたことなどのお話が印象に残りました。また、技術者として多くの製品の開発に携わった経験をもとに、学生生活での目標の立て方や技術者としての心がまえなどを学生達へ伝えていただきました。二つ目として11月10日、11日に開催された蒼阿祭（高専祭）のときに、5期生から7期生を中心に多くの卒業生の方の来訪がありました。私も一緒に寮内見学に同行し、現在の寮の状況について説明させていただきました。皆様とも寮生活での思い出を懐かしみながら楽しそうにお話しをされていました。機会がありましたらいつでも阿南高専、そして明正寮までお越しください。

最後に、悠久同窓会の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、学寮からの便りとさせていただきます。

一般教養便り

一般教養主任
藤居 岳人

悠久同窓会会員の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き一般教養主任を務める藤居でございます。よろしくお願いたします。

阿南高専が創造技術工学科1学科になって5年目となり、今年度はじめて化学コースの卒業生を送り出すこととなります。「一般教養」の名称も定着してまいりました。引き続き教養教育重視の姿勢は変わらず、低学年を中心とした高専学生の教育に邁進してゆきたいと存じます。

それでは一般教養教員の異動についてご報告いたします。まず、英語の城本春佳先生がサバティカル制度による1年間の東京大学での研究期間を終えて帰任されました。次に、高専間人事交流制度によって、昨年度から2年間の予定で高知高専から英語の赤山幸太郎先生が本校に来られています。最後に、今年度で英語の林田栄治先生と数学の川崎敏和先生が定年で退職になります。

林田先生は平成15年10月に本校に採用されました。その後、平成21年度に設置された国際交流室において、今年度までの10年もの長きにわたって初代の国際交流室長を務められました。この間、ドイツや台湾等の大学との学術交流協定の締結に尽力されたり、海外大学からの留学生の受け入れや本校学生の海外留学の道筋をつけられたりするなど、本校の国際交流の活性化に多大な貢献をなさいました。一方、川崎先生は平成17年10月に佐世保高専から配置転換で本校にいらっしゃいました。平成24～25年度は一般教科主任を務められ、また、「川崎ローズ」

で世界的に有名な折り紙理論の造詣を活かされて、長く公開講座をご担当くださいました。一般教養としても長きにわたる両先生の本校へのご貢献に深く感謝いたす次第です。4月からは、林田先生は高専機構国際展開事業・ベトナム国ハノイのリエゾンオフィス所長としてベトナムでの高専組織の拡大に尽力されることになっています。また、川崎先生は、地元の九州に戻られ、大学非常勤講師を担当しつつ折り紙作家としての活動を継続されとうかがっています。両先生のさらなるご活躍を一般教養としても祈念いたしたいと存じます。

続いて、今年度の一般教養の教員をご紹介します。

国語は、坪井泰士先生、錦織浩文先生（国語教科主任）です。主な校務は以下の通りです。（以下、各教科とも同じ）

坪井先生 教務主事

錦織先生 学生主事

社会は、今田浩之先生、藤居（社会教科主任）です。

今田先生 図書館長、2C担任

藤居 一般教養主任

数学は、川崎敏和先生、田上隆徳先生（数学教科主任）、榎田雅弘先生、山田耕太郎先生、西森康人先生です。

川崎先生

田上先生 2I担任（学年主任）

榎田先生 1-1担任

山田（耕）先生 副教務主事、2学年副担任

西森先生 1-4担任

英語は、林田栄治先生、勝藤和子先生、谷中俊裕先生、藤井浩美先生（英語教科主任）、赤山幸太郎先生です。

林田先生 国際交流室長、2学年副担任

勝藤先生 広報情報室長、1-2副担任

谷中先生 1-3担任

藤井先生 学生相談室長、1-4副担任

赤山先生 学生主事補、2学年副担任

理科は、松尾俊寛先生（理科教科主任）、山田洋平先生、園田昭彦先生です。

松尾先生 寮監、1-1副担任

山田（洋）先生 1-2担任

園田先生 2E担任

体育は新井修先生（体育教科主任）、中島一先生です。

新井先生 2Z担任

中島先生 副学生主事、1-3副担任

今年度は以上のメンバーで学生の教育・指導に取り組んでいます。悠久同窓会の皆さまにもさまざまな面でご支援いただければ幸いです。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆さまのより一層のご健勝とご多幸とをお祈り申し上げます。



機械コース便り

機械コース主任
原野 智哉

本年度も機械コース主任を務めます原野です。よろしくお願いたします。1学科コース制が導入され5年が経過しました。コース横断的授業の4年「共同教育」科目が開始されて1年が経過し、その他の情報系授業や力学系授業なども共通科目として実施し、学生が俯瞰的な視点を有するよう副専門科目の配置などの見直しを実施する時期になりました。また、業務の効率化を実施し教員の負担を軽減して最大の教育・研究効果を発揮できる高等教育機関として生まれ変わろうと鋭意一丸となって努力しています。最近とくに Society 5.0 人材育成による高専機構本部への予算措置が明確化され、機械コースでも従来の機械4力学や機械工作実習にとどまらず、ITやIoT技術を絡めたメカトロニクスやロボティクスの教育課程をより高度に含める必要性が高まっています。機械コースでは、現在3~4年生でライトレースロボット基礎実習、ライトレースロボット応用制御実習を導入したところですが、来年度には1年生の「ものづくり工学」でメカトロニクス実習を導入予定で、4年生で新たにロボット創造実習（仮称）を計画しています。

卒業研究でも Arduino Uno（アールディーノ・ウノ）などを用い、メカトロニクスを含めた制御機械を農業や漁業へ展開する取り組みが増加しています。3Dプリンタを活用したドローンのプロペラ形状の最適化、ビニールハウス内の環境測定や果実・野菜の生育測定とドローンを活用した農薬散布、メカトロニクスを活用したスマート漁業を実現するために夜間にLEDを点灯し集魚を効率化するマリンプイや無人マリンドローン、レンコン畑の鴨による食害の防止を図るための水上移動ロボットの開発などが取り組まれています。昨年度から機械コースでは材料分野、制御流体分野の2つの専門分野に教員を振り分け、本年度か

IT・メカトロニクス系研究



水上ドローン

集魚マリンプイ

蒼阿祭 機械専門展示



受容歩行ロボット製作ショップ

バルーンドローン飛行・スマホカーレースショップ

らは主任裁量経費により予算を配分し共同研究を推進し研究業績を増進する取り組みをスタートしています。

また、今年度の蒼阿祭における機械専門展示を従来の古い展示型から体験型へ大きく改革を行い、機械工学に関連するやさしい実験やものづくり（メカラボ）、ロボット競技（メカロボ）が楽しく体験できるよう全研究室が運営する13テーマを4年生と一丸となって構築し準備しました。11月10~11日の蒼阿祭当日は両日とも大盛況で、子供を含め楽しめるよう用意したスタンプラリー200枚がすべてなくなりました。

本年度も5年生の就職・進学は極めて順調でした。専攻科進学4名、大学編入学7名、帰国後進学1名の合計12名、就職28名と例年の進学30%・就職70%の割合に戻りました。大学編入学合格者数は熊本大学1名、東京農業工業大学2名、豊橋技術科学大学2名、長岡技術科学大学1名、佐賀大学1名でした。一方、就職については機械工学科への求人社数は636社に登り、求人倍率は22.9倍、就職28名のうち県内就職は7名と県外就職率が約75%と昨年度に続き極めて高い割合でした。2019年度の就職活動も早期から開始していて、2019年度採用のための企業研究セミナーが年内の極めて早い時期の12月に、しかも初めて週末の8日（土）~9日（日）に実施されたにも関わらず、過去最大の企業300社が参加し、4年生をはじめ、2019年度夏季インターンシップを控えた3年生以下や保護者にも各ブースにて説明会が盛況に行われました。こういった状況から、来年度も売り手市場の就職活動が展開されようとしています。なお、売り手市場の就職活動ですが、安易な就職によるミスマッチを防止するため、低学年からキャリア意識を醸成するため、例年3年生で関西の工場見学旅行を3月に実施しています。これを来年度から東京モーターショーなど学生の興味のあるブースへ行ける工業見本市への参加へシフトします。また、今年度から新たに2年生も9月6~7日にかけて神戸を中心に森永乳業やキューピーを訪問するほか、3D造形を手掛ける八十島プロシードでは、事前にモデリング3Dデータ作成し、訪問時に造形品を受け取る体験型訪問により、3D造形機の理解増進も行っています。また、併せて国際フロンティア産業メッセ（神戸国際展示場）も企業ブースを訪問させています。

機械コース2年生研修旅行



キューピー株神戸工場見学



学生3D造形例（スマホケース） 八十島プロシード（株）

電気コース便り

電気コース主任
松本高志

悠久同窓会会員の皆様、陽春のみぎり、お元気でお過ごしのことと存じます。今年度の電気コース主任を務めております松本です。

今年度も終わりに近づき、平成30年度の電気コースの人事ならびに校務についてご報告いたします。中村厚信先生は点検・評価委員会委員長として、高等専門学校機関別認証評価の受審を担当されました。中村雄一先生は寮務主事として寮を運営ならびに改修に取り組みました。長谷川先生は専攻科長補佐、小松先生は学生主事補、小林先生は3E担任を担当されました。西尾先生は講師に昇格され、教務主事補、藤原先生は寮務主事補、香西先生は初めて4E担任を務められました。松本は3年目のコース主任のほか、教育開発推進室長として「文科省大学教育再生加速プログラム（学修成果の可視化）」の推進、FD委員長として教員研修を担当、また国際交流副室長として学術交流を担当しました。今年度は、電気棟改修でインタラクティブ・プロジェクトを多数導入した実験室等のうち、5E教室だった部屋をinnovation Lab.として活用し、新しいことに取り組む空間として環境を構築しました。

本年度から電気コースの2年生から4年生の混成チームによるPBL実習としてイノベーション実習を開始しました。これらのチームは企業形式としてコース内の仮想通貨を介して企業収益を念頭に活動し、アントレプレナーシップ育成も目指しています。その成果は、中学生体験入学や蒼阿祭電気専門展示で確認できました。特に蒼阿祭専門展示では10種類以上の実演、体験、展示を6室で展開し、電気棟全体が専門展示となりました。学生が積極的に行動できるようになり、予想を上回る効果が上がっています。授業においては新しいアクティブ・ラーニング室を積極的に活用し、授業改善に取り組んでいます。また、電気コースでは短期留学生（概ね1カ月～6カ月程度）を積極的に受け入れており、今年度も、ドイツ、ベトナムからの短期留学生を複数名担当し、本校の学生たちとの交流を図り、刺激も受けています。

今年度の卒業予定者は24名で、17名が就職、7名が



アクティブ・ラーニング室における電気機器の授業

進学予定です。就職の内訳はJXTG エネルギー㈱に2名、ABB 日本ベレー㈱、東亜合成㈱、サントリービール㈱、関西電力㈱、パナソニック㈱オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社、四国電力㈱、中部電力㈱、ANA ラインメンテナンステクニクス㈱、ヤンマー㈱、㈱JAL エンジニアリング、㈱タダノ、藤崎電機㈱、関西グリコ㈱、ダイキン工業㈱、四国管区警察局に各1名となっています。一方、進学の内訳は、阿南高専専攻科5名、豊橋技術科学大学2名です。今後も学生のために、より良い教育を目指して頑張っていきますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、悠久同窓会会員の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

情報コース便り

情報コース主任
杉野隆三郎

悠久同窓会会員の皆様方、梅の花から桜の花へと木々の香りも変わる中、高専で学んでいた時のことを思い出されるシーズンとなりました、お変わりありませんでしょうか。本年度から「情報コース便り」のスタートです。

さて、学科改組に伴い制御情報工学科から創造技術工学科情報コースへと情報プロパーのマルチコアカリキュラムを選択した「情報コース」を完成させるため、奮闘している日々であります。本校主管でアスティとくしまにて10月に開催された全国高専プログラミングコンテストでは競技・課題・自由部門に本校情報コースから4チームが参加し、すべてのチームが表彰を受けることができました。目玉は、IoTを用いてアウトドア・イベントを見張る灯籠システム「やまおくのほそみち」が受賞した「優秀賞」です。優秀賞は、課題部門において文部科学大臣賞の次点となる賞であり、新生・情報コースの学生・教職員の「パワー」を示すものだと思います。この成果も阿南市をはじめとする自治体や県南にサテライトオフィスを構えたIT企業など各方面と協力して「高専プロコン」を盛り立てた協働の成果と思います。プロコンでの成果を踏まえ、「未来に輝くITエンジニア」を育



阿南高専・美波町・IT企業で展開する地域創生IoTクラブ事業に係るキックオフ・ミーティング風景

成するため、学生・高専・高専のステークホルダーの三位一体となった新しい人材育成を展開していく所存でございます。ステークホルダーの一員としての「卒業生のパワー」を悠久メンバーの皆様をお願いしていきますので、ぜひとも情報コースの教育に様々な形で協力いただけることを期待しております。

ここで、コースの近況についてご報告いたします。岩佐先生は、春の機構本部人事で大抜擢され、本校初の高専校長として4月より宮崎県にあります「都城高専」へ転任されました。阿南高専の名誉を高めるためにも、これからのご健勝ならびにご活躍を心から祈念いたします。田中達治先生は、キャリア支援室長として、本校OB・OGの取りまとめや企業と阿南高専とのパイプ作りに邁進され、阿南高専の未来が輝くように多岐に渡る活躍をされています。吉田晋先生は教授に昇格され、地域連携テクノセンター長と総合情報処理室を熱心に取り組みられています。また、プログラミング同好会のメイン顧問として高専プロコンや学外コンテストに学生チームを送り込み、数多くの表彰を受けるなど活躍されており、プロコン大会での阿南高専の目覚ましい躍進はひとえに吉田先生の学生指導の賜物であります。福田先生は、5年生担任をされ就職担当として、悩み多き学生の就職活動の支援にパワーを発揮されています。岡本先生は、全国高専プロコンの主管校総務のリーダーとしてたいへん活躍されました。福見先生は、4年生担任に熱心に取り組まれるとともに、IT企業と協働してドローンの新しい応用研究に成果を上げられています。安野先生は、教務主事補として新カリキュラム構築に成果を上げられるとともに、ワークライフバランス・男女共同参画責任者として職員の働き方改革に取り組まれています。平山先生は、准教授に昇格され、3年生担任と総合情報処理室副室長に活躍されています。太田健吾先生は、講師に昇格され、寮務主事補に従事するとともに、高専プロコンの競技部門委員としてたいへん活躍されました。

次に五年生の進路状況についてですが、就職26名、進学12名の行先が決まっています。就職先は、サントリー、日亜、富士通FS、メタウォーター、アトラス情報、MOTex、パーソル、JBST、サイバートラスト、ソフトサービス、HALなどです。進学先は、本校専攻科、豊橋技大、



アスティとくしまにて10月に開催された第29回全国高専プログラミングコンテストで4部門受賞を喜ぶ情報コースの学生諸君と教職員達

徳大、電通大、千葉大などです。

最後に、悠久同窓会の皆様方のご多幸と今後のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、今後の新生・情報コースの発展に応援をいただけることをお願い申し上げます。

建設コース便り

建設コース主任

吉村 洋

悠久同窓会の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。本年度の建設コース主任の吉村です。どうぞ、よろしく申し上げます。

建設コース内のご報告は、まず、教員の近況についてです。本年度の春に池添純子先生が講師に昇格されました。また、長田健吾先生が、国立高等専門学校機構在外研究員として、米国コロラド州立大学に1年間、留学されています。さらに、川上周司先生が、高専・両技科大間教員交流制度によって、長岡技術科学大学に1年間、派遣されておられます。このような中でコース内の主な校務を挙げますと、堀井克章先生が4C担任と教務主事補、笹田修司先生が就職担当と3C副担任、松保重之先生が学生主事補、森山卓郎先生が3C担任、加藤研二先生が副寮務主事とインターンシップ担当、池添純子先生が5C担任と進学担当を、それぞれ担当しております。

本年度の5年生は建設コース1期生となります。進路状況は、県内就職が4名、県外就職が9名、進学が8名、その他が2名となっております。就職の内訳として、県内就職先は(株)アルボレックス、(株)エス・ビー・シー、四国建設コンサルタント(株)、(株)補償実務となっております。県外就職先は国土交通省、西日本高速道路(株)、西松建設(株)、信幸建設(株)、原田建設(株)、玉野総合コンサルタント(株)、東京都下水道サービス(株)、四国電力(株)、TOTOバスクリエイト(株)です。また、進学先は本校専攻科(2名)、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学(2名)、京都工芸繊維大学、徳島大学、島根大学です。学生の就職に関しては、悠久同窓会会員の所属されている企業からも求人をお願いしており、お陰様で良好な求人状況が続いております。

本年度の建設コースの行事ですが、4月に北の脇海岸での測量実習の後、2年生の建設コース配属歓迎会を上級生も交えて行いました。また、6月には徳島県技術士会による出前講座を4年生対象に、10月には3年生に対する出前講座を行っていただきました。学生にとっては非常に有意義な時間を過ごすことができ、自分の今後を考えるととても良い機会となっております。また、夏季休業中に3年生対象に測量合宿を県内コンサルタントのご支援をいただいて実施する計画でしたが、本年度は台風の影響で中止となりました。次年度以降も測量合宿を計画しておりますので、ご支援のほど、よろしく申し上げます。3年生・4年生を

対象とした伊方原発見学旅行、4年生対象の関西方面への研修旅行と建設コースの行事を活発に行っており、学生・教職員の交流・絆をさらに深めております。

今後もこれまで同様、建設コースの教育等にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、悠久同窓会のみなさまの益々のご健康とご活躍を祈念いたします。

担任)、大谷卓先生(有機化学)、杉山雄樹先生(3Z副担任、進学担当)、小曾根崇先生(無機化学)です。以上、11名の教員で、授業(講義・演習・実験)、学生指導、校務運営に当たっています。授業内容は、設立以来の5本柱である、物理化学、無機化学、有機化学、生物化学、化学工学、環境生物学を、各学年進度に合わせて配置し、国立高専機構で定めた、モデル・コアカリキュラムを完遂できるよう進めています。

現在すでに進行していることですが、化学のICT化が今後は加速度的に進むと考えられます。具体的には、自動車の設計のように、コンピュータの中で途方もない数の実験を繰り返してから、選りすぐりの反応をリアルの実験で検証する。その解析結果を踏まえてまた、コンピュータシミュレーションをする、といった所謂PDCAスパイラルアップの手法です。本コースでは、50年後にも活躍できる化学系技術者・研究者の育成を目指して、その基礎となる量子化学の授業にも、先進的に取り組んでいます。

気になる進路状況についてご報告いたします。卒業予定者25名の内、15名が就職、10名が進学を選んでいます。内定状況の内訳は、就職先：大塚化学(株)、大塚製薬(株)、(株)大塚製薬工場、沢井製薬(株)、大鵬薬品工業(株)、サントリー(株)、東亜合成(株)、富田製薬(株)、日亜化学工業(株)、日東電工(株)、(株)NIPPO、ユニチカ(株)、フォーラムエンジニアリング、進学先：神戸大学、岡山大学、徳島大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、阿南高専 専攻科、となっています。好況の追い風を受けていることとは言え、既存の学科・コースに同等の進路が確保されました。ほとんどの学生が、薬品・食品メーカー、材料・素材メーカーに内定できたことは、本校に化学コースを設立した理念が正しかったという証左であると感じております。特に女子学生は、品質管理部門への配属が予想され、これは工場勤務でも日勤になりますので、本校でこれまであまりなかった活路を拓くことができたと思っています。さらにこれまであまり経験のない、化学・生物系学科への進学ができたことも、とても喜ばしいことです。以上の進路確保ができたことは、本コースの教職員のみならず、悠久同窓会会員の皆様をはじめとする学外の方々の多大なご支援・ご協力の賜物であると感じており、心より感謝申し上げます。

今後もこれまで同様、化学コースにご支援ならびにご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら、悠久同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご清栄を祈念申し上げます。

化学コース便り

化学コース主任

吉田 岳人

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。本年度より化学コース主任を仰せつかりました、吉田岳人と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。前主任の西岡守先生は本校第11期卒業の悠久会会員ですが、私は東京生まれの神奈川育ちです。とは申しましても、阿南高専に赴任してから今年で丸16年となり、いつの間にか故郷で過ごした18年間に近い長きに亘って阿南市民であり、阿南高専教員として勤めています。

化学コースは、平成26年度に1期生が2Z(化学コース2年生)に配属して以来、本年度で2~5年生が充足しました。来年度からは専攻科においても創造技術工学専攻 化学コースが誕生し、入学予定者がおります。本コースは平成25年度の発足以来、各授業の準備、実験装置・器具の導入を進めながら、年度毎に学生を受け入れてきました。一番苦労が多かったのは、当の1期生だと思えます。講義・演習・実験は立ち上げと平行した受講であり、頼りとするところの直属の先輩がいない、という状況でよく頑張ってくれたと感じます。1期生諸君には、自分たちが一度限りの1期生であり、化学コースを立ち上げたのは私達だ、といったフロンティアの精神を持って、卒業後の道を歩んでもらいたいと思います。

次に本年度の本コースの教員とその担当を報告いたします。西岡守先生(5Z担任、就職担当)、吉田岳人(主任)、奥本良博先生(学生相談室、点検評価委員)、一森勇人先生(寮務主事補)、釜野勝先生(4Z担任)、大田直友先生(学生主事補)、小西智也先生(教務主事補)、鄭濤先生(3Z



平成30年度2Z配属白衣着用式



平成30年度2Z配属歓迎会

広報情報室より

広報情報室長

勝 藤 和 子

昨年度より広報情報室長を担当しております勝藤です。よろしくお願いいたします。今年度の取り組みの概要をご報告いたします。

- ① 6月～8月、例年通り、県内全中学校と淡路地域（南淡）の中学校を訪問し、広報活動を行いました。また、9月、10月を中心として、17の中学校における進学説明会に出席し、説明を行いました。
- ② 6月～11月、高専説明会、及び入試説明会を開催しました。会場と日程は次のとおりです。
徳島市シビックセンターさくらホール（6月16日、10月21日）、南あわじサンライズ淡路（6月3日、9月30日は台風接近のため中止）、阿南高専（8月9日～10日、9月21日、11月10日）、穴吹農村環境改善センター（10月20日）。これらの中には本校卒業生保護者の方にお世話になっている会場もあります。厚く御礼申し上げます。
- ③ 6月と8月、ホームページ管理部門が、本校教職員を対象にしたホームページ編集講習会を開きました。なお、今年度末には、ホームページをより充実したものに刷新する予定です。
- ④ 10月、「高専便り」116号（校長挨拶、コース便り、前期イベント報告、クラブ活動報告、図書館便り等）を発行しました。
- ⑤ 10月27日、第17回中学生ロボット競技会を、高専プログラミングコンテストとの共催で、アスティとくしまにおいて開催しました。今年度も株式会社徳島銀行様の後援を頂きました。県内5つの中学校から12チームの参加がありましたが、優勝とアイデア賞は城東中学校、準優勝と徳銀杯は小松島南中学校、技術賞は鳴門市第一中学校のチームがそれぞれ獲得しました。また、同日、本校、徳島大学、大阪大学大学院工学研究科との共催で、「めざせっ！理系女子セミナー」も開催し、17組33人の参加がありました。

中学生人口の減少の中、本校への中学生の志願者数も減少の傾向にあり、入学志願倍率を維持していくことが課題となっています。「阿南高専」の良さや特色を表に出し、高専の知名度を上げていくと同時に、女子学生の獲得がさらに必要になってくるであろうと考えられます。今年度は、卒業後の進路の幅広さ、就職はもちろん、進学でも優れた実績を残していることと、女子学生の増加を強調して広報活動を行いました。広報資料には、「高専価値『阿南高専』で学ぶ価値。夢を実現する技術を磨き、未来を創る」というフレーズを入れ、学生の澁刺とした表情や活動の写真を多数掲載・更新し、阿南高専の強みや魅力を発信しています。

阿南高専卒業生のみなさまとのつながりを深めつつ、高専が今後も大きく発展していくために必要なことを、一つ

一つといねいに取り組んでいきたいと存じます。悠久会員のみなさまにはこれまで以上にご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

専攻科より

専攻科長

西 野 精 一

悠久同窓会の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。専攻科長を務めさせていただいています西野です。よろしくお願いいたします。

専攻科の近況を報告させていただきます。構造設計工学専攻には、1年生15名、2年生10名が在籍し、担任は1年が松保重之先生、2年が川畑成之先生です。電気・制御システム工学専攻には、1年生16名、2年生16名が在籍し、担任は1年が安野恵実子先生、2年は長谷川竜生先生です。平成30年度修了予定者の進路は、両専攻合わせて大学院への進学が8名（奈良先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大学大学院、徳島大学大学院、北陸先端科学技術大学院大学）、企業への就職が17名（日亜化学工業㈱、株大塚製薬工場㈱）、四国化工機㈱、大阪ガス㈱、花王㈱、セイコーエプソン㈱、旭化成㈱等）となっています。例年よりも、専攻科卒業生の採用を希望する企業が増加し、就職予定者が増加しました。

専攻科の活動としては、2年次の「創造工学演習」において専門分野の異なる学生でチームを組み、チームで考えた特許提案をパテントコンテストに応募しました。その結果、大学、高専、高校併せて538件の中から4件の主催者賞の中の震災復興応援賞に選ばれました。また、高専機構と海外の包括交流協定校で開催したThe International Seminar on Technology for Sustainability 2018 (ISTS2018)に2名の学生を派遣し、グローバルリーダーシップ力の育成を行いました。1年生の長期インターンシップ期間には、ドイツのオスナブリュック応用科学大学に3名、台湾聯合大学へ3名、タイキングモンクット工科大学ラカバン校へ2名等、延べ20名が海外留学し、4名が徳島大学や大阪大学の研究室で研究活動を行いました。インターンシップでの成果や気づきは、1月18日のインターンシップ報告会で発表しお互いに情報共有を行いました。

専攻科は来年度から創造技術システム工学専攻1専攻に改組します。これは本科の創造技術工学科への改組に伴うものであり、機械工学コース、電気電子情報コース、建設システムコース、応用化学コースで構成されます。今後も学習・研究環境を整え、国際性と高度な専門知識と創造的な実践能力を持ったエンジニアの育成に努めますので、ご支援よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆さんの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

悠久同窓会 創立50周年記念式典

悠久50周年 記念式典開催に想う

第7回土木工学科卒
安平剛之

平成29年8月に悠久50周年記念式典実行委員長に任じられた時は、本当に実施できるのかと不安もありましたが、徳島悠久会メンバーの励ましの声も頂き、自分自身にムチを入れ、平成30年11月10日無事に終えることができました。これもひとえに参加していただいた200名を超す卒業生の皆様のおかげと感謝申し上げます。ありがとうございました。

実行委員会は徳島悠久会のメンバーを主に20名余が集まり、会合を重ねました。早々に催し行事も決まり、ゴルフ大会委員長に高橋重之氏、記念講演委員長に西野賢太郎氏、式典懇親会委員長に横手久典氏を指名させていただき、各委員会はそれぞれに会合を重ねられた様であります。今思うに、相談もせず私の身勝手な判断により指名させていただいたことを深くお詫び致します。しかし見事に各委員長は重責を果たされたことを関係者一同より、拍手を送りたいと思います。特に、記念式典に現役学生が司会進行を行うアイデアは見事と感心いたしました。本当にお疲れ様でした。

この悠久50周年記念式典を終えた今考えることは、阿南高専卒業生がいたるとこの役職に着かれていますことであ

ります。例えば、今回の記念式典は経費面の不安もありました。参加費で全てを賄うとの方針を立て、実行に移しましたが、参加者が少なければ……。参加者を増やさなければと考え、夢の目標500名、現実の目標300名、最低の目標200名を設定しました。しかし参加者は伸び悩みました。不安がますますばかりでした。参加者が少なれば会場の変更や催しの取りやめ等が出てくるからです。そんな時、会場のホテルクレメント徳島の社長 井上佳治氏は阿南高専卒業生でした。彼は一言「ごないぞします」と、救われました。実行委員会メンバーは彼を仏様のように見え「ありがたい」、阿南高専OBに心意気を感じました。

徳島県内いや日本国内いたるところに阿南高専OBはいるはずで。今回の記念式典はたくさんの人と知り合う機会になったと考えています。

悠久とは、多くの人と知り合えるという機会であり、また今回の記念式典は、それがもたらす財産を頂いたと感謝しています。本当にありがとうございました。



同窓会「悠久」創立50周年 記念事業実行委員会に参加して

ACTフェローシップ副会長
西野賢太郎

ACTフェローシップ安平会長から呼びかけがあり、悠久同窓会実行委員会に参加したのは、昨年(2018年)7月でした。4年前に一期生機械工学科林先輩、高橋先輩の声掛けにより再設立された悠久徳島支部の面々が本実行委員会の中心メンバーでした。半世紀ぶりの悠久同窓会開催であり、一同の目つきにはやるぞの輝きを感じましたし、「よし！素晴らしい大会にしよう、参加される高専OBの皆さんに感動してもらえる記念事業にしよう」と言う意気込みには、心底の「阿南高専愛」を共有することができました。思い返しますと、阿南高専第5代 西口校長先生とご

縁があり、当時の阿南商工会議所 田村藤太郎会頭のご協力ご支援を頂き、さらには、多くの高専OB諸兄や地元企業経営者のご協力によりACTフェローシップを立ち上げてさせて頂いてから25年目にも当たっていました。改めてACTフェローシップ会員企業として阿南高専の教育研究活動支援として多額の浄財を長きに亘ってご寄付して頂きました皆様にも誌面をお借りしてお礼申し上げたいと思います。この機会にACTフェローシップ立ち上げに取り組みました背景について少しご紹介させて頂きたいと思っています。この当時、私は阿南高専建設システム工学科湯城教授とともに「那賀川河道内の植生分布」について共同研究に携わっており、そのために阿南高専に向かう機会がありました。併せて阿南商工会議所青年部会長として地域活動にも参加していましたので、工業の町阿南市(現在では3000億円超/年の製造品出荷額を誇る)を支える人材育成と研究開発活動の拠点として欠かすことができない阿南高専の存在を理解できる立場にありました。そうしたおり、国においては国立大学、高専の研究助成金削減施策が始ま

り、当然ながら阿南高専もその対象となったのです。そこで、当時の西口校長先生、田村阿南商工会議所会頭と協議させて頂き、関係者に呼びかけて設立することになりました。今日では、約100社の企業にご協力頂き年間約200万円の研究助成などにご活用頂くとともに、卒業式において優秀卒業論文にはACT会長賞として表彰させて頂いていることをご紹介させて頂きます。

さて、悠久50周年事業は実行委員会委員各位の15か月に亘るご尽力により、200名を超すOBに参加して頂き、又、ホテルクレメント徳島井上総支配人（高専6期卒業？）の多大なご支援も頂きこれまでにない熱く、盛り上がった同窓会となり、会場いっぱい「高専愛」の花が咲いていたことがとても印象に残りました。又、今回の同窓会では、現役高専生に呼びかけて同窓会運営にも参加をお願いし、当日の司会進行などを担当して頂き、又壇上にてご挨拶をしていただくなどこれまでにない企画となり、現役学生とOBのコラボによる運営はこれからの同窓会スタイルとしての可能性を感じましたし、なにより参加現役学生の皆さんに大変喜んで頂いたことです。「私たちもOBになっただけひ悠久活動に参加します！」との反応が同窓会を企画させて頂いたわたしたちを喜ばせたメッセージでした。会場内のテーブルでも再会を堪能する仲間たちで一杯でした。「ご苦労さん」「ありがとう」と呼び掛けてもらえる達成感が何よりのご褒美となりました。多くの同窓生からは、「悠久をさらに活性化しようよ」とか「ACT応援するよ」

とかのお声を頂戴しましたし、私たち実行委員会メンバーにおいても同様のご意見も多数頂きました。そうした関係者の多くのメッセージは今回の悠久同窓会50周年事業が「大成功」であったなにより証だと受け止めており、「悠久」もACTフェローシップもそれぞれ50周年、25周年を経過し、今一度原点回帰する機会を得たことを意味していると思います。昨年11月26日ホテルクレメント徳島にて開催されました「悠久同窓会実行委員会解散会並び安平実行委員長慰労会」は同時に悠久活動改革とACTフェローシップの活動強化検討委員会として継続することになりました。当面は阿南市在住の横手社長、日出悠久徳島支部長、西野と一期高橋先輩が次なる方向に向けて調査研究することになりました。若年人口激減時代において阿南高専が引き続き優秀な学生を輩出し、阿南市、徳島県の地域産業を支える人材教育と併せて新技術を創生する研究開発拠点として成長発展を支える悠久同窓会とACTフェローシップ活動へのOB諸兄の参加とご支援を期待しています。



昨年11月10日、私達、阿南高専OB会（悠久同窓会）の50周年イベントが開催されました。
 久方ぶりの再会を喜ぶ顔、大きな思い出話。学窓での日々が、昨日の事のように思い出される感激と興奮。思い出の校歌と寮歌、罵声にも似る大声での斉唱?!。参加者の多くは、還暦を迎えておられました。再会を喜び、又の機会を期す笑顔の向こうには、何か見えるのでしょうか？
 昔では、就職率100%、求人、学生一人に何十人という恵まれた環境に注目が集まっていたようです。然しながら、必ずしも楽観的な状況ではないようです。
 御存知の方も多いとは思いますが、徳島県内では、高校の統廃合が進んでいます。県南でも、既に廃校になった高校もあるようです。一番の原因は、少子高齢化であると思われれます。私達の母校である、阿南高専も例外ではなく、志願者の減少に悩まされているという話も聞いております。高専という性格よりして、廃校……云々の可能性は低いでしょうが、定員削減・高松高専との統合などは、事務方レベルでは既に机上に上がっているかも知れません。
 では、私達卒業生は、どうしたら良いのでしょうか？推移を見守ることしか出来ないのでしょうか？それらの課題に因應するべく企画したのが、昨年の50周年イベントでした。この企画は大成功であったと、各方面より高評価はいただいております。

ネクスト50年への展望

悠久徳島支部長 昭和48年度機械 日出晴夫

が、これは出発点に過ぎません。今後の持続的な活動こそが、将来を決めるのだらうと思います。具体的な課題として

① 悠久本誌の充実

② 総会出席者数拡大

を当面の指標としておっしゃいます。その誌面、現場で、阿南高専の未来を語り合います。そして、何か出来ることがあれば、実行に移しましょう。

また、日々の交流も考えております。私がモデレータを務めるfacebookのグループに参加いただければ幸いです。

グループ名は「とくしま悠久会（阿南高専OB会）を世話する会」です。元々は、昨年の50周年イベントの実行委員会の事務連絡用に作成したのですが、多くの方の参加をいただいたので、検索可能な公開グループへ変更しました。名称も、そのまま続けたいと思います。情報共有、交換の場になりたいと思っております。



facebook グループです。参加にはアカウントが必要です。

他にも、悠久同窓会として運営されているSNSもありますので、機会を見つけて交流・紹介していきますので宜しく御願います。

では、8月12日、悠久同窓会総会でお会いしましょう。

悠久同窓会「創立 50 周年記念ゴルフコンペ」だより

昭和 42 年度機械 高橋重之

秋気いよいよ深まる頃、悠久同窓会創立 50 周年記念式典に先がけて、去る平成 30 年 11 月 9 日（金）、悠久同窓会創立 50 周年記念ゴルフコンペが、徳島カントリー倶楽部 月の宮コースを舞台に開催される。（尚 本コンペは第 5 回徳島悠久同窓会コンペを兼ね開催）

日頃の皆さんの行いが良いのか!? 前日の天気予報の雷を伴う雨模様の予想を吹き飛ばし、ゴルフ日和に恵まれ、参加者総勢 43 名（添付エントリー表）が老体に鞭打ち、無事怪我もなく楽しいプレイを満喫する。

【競技内容の報告】

エントリー内容は、悠久同窓会 1 期～ 27 期の 12 組 43 名が OUT・IN 9：30 同時スタートで、白球をティーショットする。



参加者年齢が、70 歳過ぎから 40 歳代の老若入り乱れ、スタート杭・技量・弁舌も多士済々の楽しい熱戦コンペのなか、ベテラン円熟技が冴えわたり、栄えある優勝は、吉田正治氏 6E が獲得し、中津清氏 2E が準優勝となる。（優勝スコア：OUT35・IN39 / ベストグロス 74、ネット 70.4 見事な成績!!!）

また、今回記念大会として設けた特別賞 5 位は、本会幹事の松尾有二氏 12C が、幹事の特権（笑）を大いに活用し見事獲得。（創立 50 周年、第 5 回徳島悠久会ゴルフコンペの No 5 に因み、ベスト商品賞に設定）

なお、特筆として新たに本大会を記念し、「持回り優勝トロフィー」を設け、今後の悠久会ゴルフ会発展に活かしたい。（寄贈者 7 名敬称略：林 岩男（1M）、高橋重之（1M）、藤倉正（1E）、林 政憲（2M）、細井義勝（2M）、坪内強（2E）、中津 清（2E））



徳島悠久会ゴルフ会員募集と次回コンペ開催予定のお知らせについて

【本会主旨・運営について】

阿南高専悠久同窓会すべてのゴルフ同好会員を通じて、人脈ネットワーク拡大と、趣味を楽しみ、悠久同窓会発展に寄与する。今後の運営は、年二回（5 月第 3 金曜日、11 月第 1 金曜日）定期開催予定とする。

【会員モットー】

- ① 悠久会員どなたでも楽しく参加し、交友を深め、健康促進を図る。（過去 5 回開催しているが今回優勝スコア 74 点もいれば 120 点以上（3～5 割が 100 以上）の方もいる）
- ② ゴルフ好き老若男女の緩やかな会員登録制（無理をせず可能なときに参加）

【追記】

ゴルフと健康について、150 年以上の歴史があるゴルフ発祥英国の統計によるとゴルフを生涯続けている人と、ゴルフをしていない人の比較で、平均寿命が 5 年長くなるとのデータがある。

下記に会員大募集と、次回開催案内をしており、奮って申し込みをよろしく。（特に若手会員 4 人組お誘い歓迎）なお、会員登録者には、今後の「ゴルフコンペ開催お知らせ」を継続的に案内する予定。

次回

徳島悠久会ゴルフコンペ開催のお知らせ!!!

開催予定日：平成 31 年 5 月 24 日（金）
場 所：詳細未定（追って連絡）

徳島悠久同窓会ゴルフ部会

新規登録 & 次回参加希望者は下記メンバーへ申込ください（Mail 希望）

会 員
大 募 集 中 !

- 代表幹事 高橋重之（1M） 携帯：090-2892-3704 Mail：tkhs471030@me.pikara.ne.jp
- 幹事 森正志（7M） 携帯：090-4333-3408 Mail：masadonndonn@yahoo.co.jp
- 幹事 松尾有二（12C） 携帯：090-4782-7077 Mail：y.matsuo@inoue-naruto.jp
- 会計 星場俊之（30M） 携帯：090-1008-2348 Mail：t.hoshiba@okabekikai.co.jp

悠久同窓会 50周年記念 ゴルフコンペ

1. 日 時：2018年11月9日（金） スタート＝AM9時30分
2. 場 所：徳島カントリー倶楽部 月の宮コース（徳島市入田町月の宮 227）

組み合わせ表

		① 氏 名	② 氏 名	③ 氏 名	④ 氏 名
O U T コ ー ス	AM9:30 (第1組)	林 岩 男(1M)	高 橋 重 之(1M)	藤 倉 正(1E)	
	AM9:36 (第2組)	久 米 恵 二(4M)	中 井 郁 雄(4M)	湯 浅 英 夫(4E)	松 原 一 夫(4E)
	AM9:42 (第3組)	大 西 賢 治(6C)	福 本 成 幸(6C)	漆 原 俊 二(7C)	中 川 洋 三(7C)
	AM9:48 (第4組)	木 村 定 夫(3M)	細 川 重 典(7M)	佐 藤 泰 弘(7M)	森 正 志(7M)
	AM9:54 (第5組)	島 尾 明 良(8M)	清 水 渡(8M)	天 満 祐 司(8M)	
	AM10:00 (第6組)	本 田 泰 広(11E)		久 米 誠 一(11E)	
I N コ ー ス	AM9:30 (第1組)	細 井 義 勝(2M)	林 政 憲(2M)	坪 内 強(2E)	中 津 清(2E)
	AM9:36 (第2組)	畑 山 芳 文(4E)	半 田 勝 人(4E)	鈴 木 研 司(4E)	
	AM9:42 (第3組)	新 居 秀 明(6E)	長 野 重 章(6E)	吉 田 正 治(6E)	亀 田 豊(6E)
	AM9:48 (第4組)	大 島 雅 緒(10M)	大 森 博 文(10M)	美 馬 哲(10M)	後 藤 嘉 之(10C)
	AM9:54 (第5組)	藤 岡 一 雄(10C)	岩 崎 公 男(12C)	斎 藤 英 司(12C)	竹 内 義 博(12E)
	AM10:00 (第6組)	松 尾 有 二(12C)	工 藤 直 人(13E)	阿 部 茂 且(21C)	古 賀 聖 大(27C)

結 果

順位	参加者名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET	順位	参加者名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	吉田正治	35	39	74	3.6	70.4	23	坪内強	43	42	85	7.2	77.8
2	中津清	44	47	91	19.2	71.8	24	森正志	45	46	91	13.2	77.8
3	細井義勝	40	50	90	16.8	73.2	25	岩崎公男	52	51	103	25.2	77.8
4	藤倉正	39	37	76	2.4	73.6	26	天満祐司	51	50	101	22.8	78.2
5	松尾有二	40	41	81	7.2	73.8	27	湯浅英夫	54	48	102	22.8	79.2
6	鈴木研司	41	49	90	15.6	74.4	28	島尾明良	52	55	107	27.6	79.4
7	木村定夫	45	47	92	16.8	75.2	29	後藤嘉之	56	49	105	25.2	79.8
8	松原一夫	47	44	91	15.6	75.4	30	林岩男	47	51	98	18.0	80.0
9	中井郁雄	42	43	85	9.6	75.4	31	清水渡	47	44	91	10.8	80.2
10	古賀聖大	39	40	79	3.6	75.4	32	工藤直人	52	57	109	28.8	80.2
11	美馬哲	43	41	84	8.4	75.6	33	半田勝人	59	54	113	32.4	80.6
12	藤岡一雄	47	43	90	14.4	75.6	34	大西賢治	51	55	106	25.2	80.8
13	林政憲	44	45	89	13.2	75.8	35	中川洋三	46	52	98	16.8	81.2
14	漆原俊二	48	47	95	19.2	75.8	36	竹内義博	56	56	112	30.0	82.0
15	阿部茂且	46	42	88	12.0	76.0	37	新居秀明	56	60	116	33.6	82.4
16	福本成幸	51	47	98	21.6	76.4	38	畑山芳文	61	58	119	36.0	83.0
17	高橋重之	52	45	97	20.4	76.6	39	長野重章	55	62	117	33.6	83.4
18	亀田豊	48	49	97	20.4	76.6	40	久米恵二	50	53	103	19.2	83.8
19	大森博文	47	50	97	20.4	76.6	41	本田泰広	53	46	99	14.4	84.6
20	大島雅緒	44	51	95	18.0	77.0	42	佐藤泰弘	57	65	122	36.0	86.0
21	久米誠一	47	41	88	10.8	77.2	43	細川重典	59	65	124	36.0	88.0
22	斎藤英司	45	48	93	15.6	77.4							

悠久同窓会 創立50周年記念

記念式典の様子



感謝状を授与される左から喜多さん、宇野さん、福富さん、久米さん、阿部さん



司会を務めた在校生の皆さん



祝賀会の様子



桂 七福さんの司会により祝賀会が盛り上がりました



高橋保人さんより乾杯の挨拶



恩師の皆様より一言いただきました



式典・記念講演会・祝賀会

平成30年11月10日(土) 於 ホテルクレメント徳島



住友達也氏による
記念講演会の様子



演題「買物難民を救え！
移動スーパーとくし丸」



会 員 だ よ り



近 況 短 信



昭和43年度機械 森 岡 和 美

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。早いもので、悠久同窓会も創立50周年を迎え誠におめでたいことです。心よりお慶びを申し上げます。私は6年前に脳梗塞になり、後遺症で右手、右足が不自由になり、現在リハビリ通院中で、残念ながら記念行事には参加できませんでした。

リハビリも兼ね左手でパソコンを操作し、地元の地域おこし住民団体「加茂谷元気なまちづくり会」の事務局の応援で資料作成をしたり、また近況など綴り地元の新聞に投稿したりしています。今年も昨年同様になりますが、最近の投稿原稿から抜粋し、近況報告とします。

会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。

【通信Ⅰ】平成29年10月18日 記

安全軽視の企業体質の改善が急務

神戸製鋼のデータ改ざんはアルミニウムのほか銅や鉄鋼製品の一部でも、強度や寸法を偽って出荷していたとのことだ。対象品の納入先は、世界各地の航空機、新幹線、自動車関連企業など500社に上るといふ。安全が最優先されるべき人命に関わる乗り物関連の素材に、このような改ざんが行われていたとは言語道断である。「品質の日本」というイメージを根底から損なう由々しき事態である。

機械・機器の強度設計は、素材メーカーからの材料証明書の数値を基本に計算されている。その数値に改ざんがあると、安全で適正な材料選定ができなくなる。しかも軽薄短小の流れの中で、材料にも軽量化が求められ、構造設計も安全を確保できる余裕代が圧縮されてきているのもまた事実である。

さらに航空機、新幹線、自動車などは、衝撃・振動・風雪雨・高低温にさらされるという過酷な条件下でも使用される。短期の使用では問題がなくても、長期間の使用は耐摩耗性、耐疲労性不足により、破壊に至るといふ懸念もある。最近航空機からの部品落下が多発しているのも、この前兆ではないのだろうか。墜落事故などあってはならないのだ。企業は安全第一を肝に銘じ、安全軽視の企業体質を早急に改善しなければならない。

【通信Ⅱ】平成29年11月10日 記

学習は自ら学ぶ姿勢が大切

徳島新聞に以前、小松島高校で開かれた「全校一斉生徒授業」の記事が掲載されていた。3年生の応用クラス41人が、2、3人一組で先生役となって全校一斉に1～3年の17クラスで数学の授業をするという県内初の試みで、全国的にも珍しいとのことだ。

仲間と学ぶ新鮮さ、先輩と学ぶ楽しさ、いつもと違う雰囲気、数学が身近にある面白さを感じたと感想を述べている。

日頃、教師から一方的に説明を受ける授業では、どうしても学習に対する態度が受動的になりがちだ。しかし先生役をすると、しっかり学んで問題点を自ら究明し理解していないと務まらない。得た知識をどのように活用し、どうやって自分の言葉で伝えるか。そこから自ら学ぶという姿勢が備わってくる。また教わる方も同じ生徒同士ということで気楽に質問もでき理解向上にもつながったようだ。

この一斉授業のあと、クラスに自ら学ぶという雰囲気が出てきたとのこと、効果があったようだ。12月には、第2回目の「全校一斉生徒授業」が計画されているとのこと。この新しい取り組みにより、生徒が学ぶということの楽しさを感じるようになれば、学校はますます楽しい所になるだろう。同校の今後の取り組みに大いに期待したいものだ。

【通信Ⅲ】平成29年12月15日 記

核廃絶へ第一歩を踏み出そう

核の悲劇回避を訴えるなど核兵器禁止条約を結実させ、今年のノーベル平和賞を受賞した非政府組織（NGO）「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）への授賞式が先日、ノルウェーの首都・オスロであった。しかし核禁止条約に反対する米ロ英仏中の駐ノルウェー大使らは授賞式を欠席し、人類の悲願である核廃絶の道に暗い影を落とす結果となった。

「核の抑止力で平和が保たれる」、そんな誤った認識で、核保有5大国はかたくなに条約を拒んでいる。米の核の傘の下で平和を享受している日本も同様だ。広島と長崎への原爆投下から72年、「ヒバクシャにもたらされた苦痛」との一節が前文に取り入れられ、人道的立場から核兵器を否定する条約を、唯一の被爆国の日本が拒んでいるのである。

日本政府は、条約が、「北朝鮮の脅威といった現実の安全保障問題の解決に結びつくとは思えない」と表明し、5

核保有国に歩調を合わせている。それで日本は国際社会のなかで、その役割を果たしているのであろうか。

「核抑止力」を国家安全保障の柱に据える国々とは一線を画し、世界で唯一の被爆国として、その立ち位置を明確にすべきだ。核兵器の「非人道性」を強調し、核兵器の廃絶を願う国際世論の流れを後押しすべく、条約批准に第1歩を踏み出す必要がある。それこそが世界平和を願う日本に課せられた使命である。

【通信Ⅳ】平成29年12月30日 記

重大フェイクニュース発表

今年も色んなことがありました。当局から順不同で発表された？今年の重大フェイクニュースをお知らせします。

▼鳥取県カラオケ店組合は、リモコンを装置本体に固定し、持ち歩きできないようにすることを、総会で決議しました ▼熊本市議会では、本会議場に隣接して、託児所を設けることが決まりました ▼国土交通省は、国有地の売却前に地中のゴミ調査のため「土地埋蔵物調査犬」の導入を決定しました。なお飼い主については「正直爺さん」であることが条件とのことです ▼「当社の新車購入時には、他社の検査官の完成検査を受けてから乗ってください。検査費用は当社で負担します」とのコメントが、日産自動車より発表されました ▼日本相撲協会より初夢の番付が発表されました「一富士、二貴、三白鵬」です ▼横綱審議委員会が、日本相撲協会に、横綱降格制度の導入について検討するように勧告しました ▼今年の流行語大賞「忖度」に関して、官房長官より、「総理の御意向は関係ありません」とのコメントが発表されました ▼同じく「〇〇ファースト」に関して、「なぜ、一番でないの？」とのコメントが都知事より寄せられました。

以上、フェイクニュースでした。

来年は、素晴らしい本当のニュースをお知らせできるよう希望します。

【通信Ⅴ】平成30年1月16日 記

晴れ着騒動は自身も教訓に

成人の日の式当日、晴れ着のレンタルや着付けなどをする業者「はれのひ」と契約した新成人から、店側と連絡が取れないとの相談が警察などに相次いだ。経営者がいわゆる「とんずら」したのだ。まったく開いた口がふさがらない。数百人の新成人がトラブルに遭ったとみられ、被害額も2億円を超えるようだ。

成人の日は、人生でも最も思い出深い節目の一つであり、記念すべき日である。その日が心無い業者のために台無しになったことにやり場のない憤りを覚える。門出に花を添えるどころか土足で踏みにじったようなものだ。少しでも被害額が返ってくるように警察当局に期待したい。

ただ、救いは本社と連絡がとれなかった福岡天神店が「新成人の予約が入っており、お嬢さんたちを泣かせるわ

けにはいかない」とスタッフが無給、ボランティア状態で通常通り営業したことである。この店舗のスタッフは見上げた心掛けだ。行方不明の経営者には爪のあかでも煎じてのませたい気分だ。

被害にあった新成人はお気の毒だが、状況を判断して職務を全うした福岡店舗の従業員のことに思いをはせ、人生の教訓として欲しい。また関係者に限らず、自分はこんな無責任なことは絶対にしないと新成人の誓いしてもらいたい。

【通信Ⅵ】平成30年2月19日 記

遍路日誌でリハビリに励む

脳梗塞の後遺症で、右半身が不自由になり、小松島病院にリハビリ通院している。スタッフによるリハビリ時間以外は、各人が症状に応じて、自主的に歩行訓練に励んでいる。

歩行訓練は病棟廊下を周回するもので、単調であり継続にはかなり努力が必要だ。そこでスタッフが「遍路日誌」を作ってくれた。四国霊場88ヶ所の札所名と札所間距離が、記載されていて、歩いた距離に応じて通過した札所欄に確認スタンプを押してくれる。

患者同士が「どこまで行きましたか」「もうすぐ20番鶴林寺です」などと会話したり、スタンプを押す時に「だいぶ歩行速度が上がってきましたね」「次の札所までは距離がありますが、頑張ってくださいね」などとスタッフから励まされたり。遍路日誌のおかげで歩行訓練も単に歩くだけでなく、霊場巡りをしている気分も味わえ、達成感がある。

細やかな心配りに感謝しつつ、遍路日誌を携えて共にリハビリに励む十数人の仲間と、「同行二人」ならぬ「同行十人」で、いつか本当の霊場巡りをすべく、リハビリの決意を新たにしている。

【通信Ⅶ】平成30年3月2日 記

移住者パワー全開 地域の宝

少子高齢化の進む阿南市加茂谷地区で地域おこし住民団体の努力もあり、移住者が増えている。今春移住予定の2家族を含めて14家族55人が移住してきている。同地区水井町では、小学生以下の子どもが1人であったのが、3家族が移住してきて11人増えて地域に活気が出てきた。

移住者はすっかり地域に溶け込んで、町内会活動や地域の行事にも積極的に参加してくれている。移住者が中心となって地区内の休校中の大井小学校を活用した音楽とマルシェのマッチングイベント「加茂谷かもかもフェスタ」も昨年で3回目の実施となった。また加茂谷で初めてのパン屋「しげばん」も開店1周年を過ぎ、今もパンの焼ける香しい香りが那賀川の川面をわたる風に乗って漂ってくる。野菜づくりに励む移住若夫婦の奥さんが、このほど店舗内産直市「すきとく市」の女性部長として就任、実務面で御世話して下さることとなった。この3月には移住者が民家を改修してカフェを吉井町に開店予定である。先日は移住

者グループの企画で、このカフェを会場として「音楽ライブと加茂谷初マーケット」が開催された。

今後各地区を巡回して開催予定とのことだ。この他にも加茂谷地区内で、移住者の企画立案による地域おこし活動が活発に行われていてパワー全開、まさに移住者は地域おこしの宝物である。

【通信Ⅷ】平成30年4月18日 記

「日報と森友」早期の解明を

防衛省幹部が、あって欲しくない日報が、探せばザクザク出てくる。一方、森友学園用地では、あって欲しいゴミは出てこない。財務省の指示で、森友学園建設予定地周辺は、空のダンプカーが走り回っている。最近の国会審議をみていて、こんな光景が思い浮かぶ。

防衛省では、日報の有無調査の指示が各組織に徹底されず、ずさんな調査に終始し、今になって日報発見が相次ぎ、防衛大臣は陳謝に明け暮れている。そもそも当初の指示が曖昧であったことも調査が十分行われなかったことの原因であることも否めない。このような指示命令系統で、有事の際に国の防衛をつかさどる組織が機能するのでしょうか？心配は絶えません。

一方の森友問題で、ポチは、「ここ掘れ、ワンワン」と鳴いていますが、掘る場所を間違えているのでしょうか？いや本当は、「ここ掘るな、ワンワン」と鳴いているのかもわかりません。ほんとうに、こちらが泣きたくります。どうなっているんでしょう。何を信用すればよいのでしょうか。正直じいさんは、何処へ行ったのでしょうか。

「ありません」「廃棄しました」。こんなことでは、日本も無くなってしまわないかと心配です。早期に事態解明と対策が講じられ、これが無用の心配に終わり、すっきりとした五月晴れの季節を迎えたいものです。

【通信Ⅸ】平成30年6月9日 記

速度に自覚を

高齢者による交通事故があとを絶たない。年を取ると身体能力、判断能力が衰えるというのがその原因と言われる。それも理解できるが、若い人でも人間の身体能力を自覚しておくことは必要だ。人間の移動速度を考えると、現在の日本での最速は、陸上男子100メートルで、桐生祥秀選手が、9秒98の日本新記録を樹立し、日本人で初めて10秒の壁を破った。100メートルを9秒98というスピードは、時速36kmに相当する。

これが現在の陸上短距離界トップアスリートの身体能力だ。人間の移動する速度制御における身体能力の限界と言えるだろう。

普通の人には、そんなスピードで走れる訳は無いので自身の足でそのスピードを体感するということはどうも無理である。しかし、車に乗ればそのスピードで移動することは可能だ。時速40kmで走行すれば、そんな高速という

実感はないだろう。しかしその速度は既に人間の身体的制御能力を越えた危険な領域であるということに十分自覚し、安全運転に徹するべきである。

100メートル走は、いくら早く走ってもスピード違反はないが、道路での車の走行は、制限速度を厳守しなければならない。

【通信Ⅹ】平成30年6月17日 記

那賀川源流探検 自然を満喫

先日、那賀川流域住民でつくる「那賀川アフターフォーラム」主催の「那賀川源流碑開き（源流探検ツアー）」に、妻、娘、孫2人で参加した。参加者全員で、流域の安全祈願をしたのち、交流会では冒頭、源流の調査・特定に携わった湯城豊勝阿南高専名誉教授より、源流の決め方（標高、川の長さ、水量、地元での由来、年間を通じ流れがあるかなど）を教えていただいた。その後参加者交流では、孫たちが校歌や学校紹介をして盛り上がった。

剣山トンネル横広場に設置された源流碑から源流モニュメントのある源流点（標高1360m）までの遊歩道の両側は、みずみずしい新緑のブナ、ナラなどに銘板が付いており樹木名を確認しながら散策できるようになっている。

源流では予め下流でサンプリングして持参した水と簡易パックテストで水質の比較検査を行い、源流の水質の良さを確認した。

おやつタイムでは、持参したポテトチップスの袋が風船のように膨らんで、子どもたちは源流地点では平地より気圧が低いことを実体験していた。帰りに長安口ダムで休憩時、源流で飲み残したお茶のペットボトルをリュックサックから出したところ、半分くらいに凹んでいて、またびっくりしていた。日常の平地での生活では得られない貴重な体験で自然を満喫して大満足の日であった。御世話いただいた皆様ありがとうございました。

【通信Ⅺ】平成30年7月5日 記

サッカー日本の奮起期待

サッカーのワールドカップ（W杯）ロシア大会で日本は1次リーグH組で2位となり、2大会ぶり3度目の決勝トーナメントに進出、初戦は国際サッカー連盟（FIFA）ランキング3位のベルギーと対戦し、2-3で惜しくもベスト8進出はならなかった。1次リーグでも他の3チームはランキングが日本より数段格上で、戦前の予想では1次リーグ突破もかなり厳しいものであっただけに見事な活躍ぶりと言える。

しかし素直に喜べないのはどうしたことだろう。1次リーグ最終戦、引き分け以上で自力での決勝トーナメント進出が確定する対ポーランド戦0-0で前半を終えたものの、後半1点を先制された。終盤には負けているのに攻めないで自陣でのボール回しに終始する、覇気の無い戦いぶりになった。

これは同組のもう一つの試合で、コロンビアが1-0でセネガルをリード、このままの状態が終われば順位決定規定で日本が2位となり、決勝トーナメント進出できるからだった。無理をして攻めて相手のカウンター攻撃で得点されるのを避けたようだ。

はたしてこれが国を代表するチームの取るべき態度であったのだろうか？しかも順位規定が、「フェアプレーポイント」というから、開いた口が塞がらない。今回、運にも恵まれて決勝トーナメントに進出した。4年後のW杯では、さらに成長した侍ジャパンの戦いで勝ち上がるように奮起を期待したい。

【通信XII】平成30年8月9日 記

平和な美しい国 名前に込め

私は「和美」という名前だが、れっきとした男性である。だが、仮に東京医大を受験していたら、一律減点の対象になっていただろう。54年前、高専の入学式で、同級生から、「なんだ、男でないか」と言われたこともある。その当時は、新聞に合格者氏名が掲載されていたので、同級生は私の名前を見て、入学式の日まで、「機械工学科にも、女性がいる」と楽しみにしていたようだ。

父親に「和美」の名前の由来を聞いたことがある。父の兄は「一美」で太平洋戦争に出征し、昭和17年3月28日、ビルマ（現ミャンマー）での戦闘で戦死したとのこと。享年24歳。父は復員後結婚し、昭和24年3月28日に私が生まれた。「一美」の命日に生まれたので、生まれ変わりだと言うことで、名前は「かずみ」漢字は「戦争の無い、平和な美しい国になるように」との思いから「和美」にしたとのこと。

終戦記念日が近づくと、お国の為に戦った人の名前を引き継いだという思いと、若くして異国の地に散った伯父の無念さはいかばかりであったかという思いが交錯する。

今、日本の行く先に何やらきな臭い動きが感じられる。多くの御霊の犠牲の上に、今日の平和と繁栄があることを肝に銘じ、御霊の安らかならんことと二度と戦争のない恒久平和への願いを強くしている。

【通信XIII】平成30年8月14日 記

スポーツの心

最近、アメフト、レスリング、ボクシングなどで、およそスポーツマンシップ、フェアプレーといった言葉からは程遠い不正・パワハラ・不公正の事象が発覚し、スポーツ界を揺るがせている。

私は、昭和39年開校2年目の阿南高専に入学、翌40年にラグビー部を創設するべく友人数人と顧問の御願いに、宮岡常夫先生（故人）の教官室を訪ねた。先生は、「ラグビーは、紳士のスポーツだ。ラグーマンは、紳士でなければならない。これを守ってくれるのなら引き受けても良い」と言われた。

先生は、以前、城東高校で教鞭をとられ、同校ラグビー部の監督として、昭和31年から36年まで連続で全国大会に出場、36年には前年優勝、同年準優勝の保善高校（東京都）と2回戦で対戦、0-9で惜敗するという結果を残している。そしてその戦いぶりがフェアであるとのことで、「敢闘賞」の特別賞表彰を受けている。先生からは、3Fの精神をたたきこまれた。

Fighting Spirit（敢闘精神）、Friendship（友情）、Fair Play（フェアプレー）の3つだ。

30人の男が1つのボールを奪い合うラグビーでは、1人の主審がすべてを把握することは至難の業だ。プレーヤー自身がレフリーのつもりで公正なプレーを心掛けてこそルールに則ったフェアな試合が展開される。すべての競技で、選手はルールを遵守したうえで、気力溢れるプレーを心掛けたいものだ。

【通信XIV】平成30年8月24日 記

金足農 厳しい冬に鍛錬重ね

第100回全国高校野球選手権大会は、決勝で大阪桐蔭（北大阪）が金足農（秋田）を破り、史上初の春夏連覇2度目の達成という偉業を成し遂げた。敗れはしたものの秋田県勢として103年ぶりに決勝に進出した金足農も立派である。

グラウンドが雪に埋まるという冬場の過酷な条件の中で、長靴を履いて雪の中をランニングするなど、金足農の冬合宿は口では言えないほど厳しいようで、試合中も「冬を思い出せ」と声をかけあっているようだ。精神的にも技術的にも、少人数でしっかり鍛えた強さを感じられた。まさに厳しい環境を試練として、鍛錬で乗り切った賜物である。

“鍛錬”と言えば、宮本武蔵の“五輪の書”では、千日の稽古を“鍛”といい万日の稽古を“錬”という。また刀造りにおいては鉄を鍛造する過程で最初の段階を鍛といい、硬さ・強さをつくるのが狙いである。しかし、これだけでは刃こぼれが早い。やわらかい火で焼きを入れて柔軟性をつけるが、この段階を錬という。この錬りが十分に入って初めて実戦で役立つ刀になる。名刀の誉れが高いものはこの柔軟性に優れている。

人間も同じである。若い時は血気盛んであるが挫折しやすい。人生の辛酸を嘗めた経験と齢を重ねることによって人としての魅力が出てくる。常に鍛錬を心掛け、人生の名刀でありたいものだ。

【通信XV】平成30年9月19日 記

都会の学生 田舎の魅力体験

8月24日から9月13日まで、東京の武蔵野大学の学生76人が5班に分かれて、加茂谷地区で農業体験ボランティアをした。例年になく厳しい残暑の中、学生たちは、スタチの収穫、葉物野菜の種まき、イチゴ苗の手入れ、菌

床シタケ栽培、肉牛の世話、農業用ハウスの整備などを若さとパワーでこなした。

彼らは80歳夫婦のイチゴ栽培農家で実習し、「東京では考えられない。田舎の高齢者はすごい」と驚いていた。また住民との交流について、「地域が大きな一つの家族のようだ。住民の繋がり、地域コミュニティには感心する」と言っていた。全校生徒40人の地元中学校の文化祭にも16人の学生が加わり、大いに盛り上がった。ある学生は、「生徒全員が主役で、一人一人が輝いていた。教師志望だが、

将来こんな学校で教鞭をとりたい」と感想を述べていた。

学生にはアンケートを提出してもらったが、「将来加茂谷で住みたい」と回答した学生が23人もいた。彼らは「自然環境に恵まれ、人が温かく、住民同士の繋がりが家族のようで住みやすい」と書いている。

われわれが何気なく過ごしている日常や環境が、彼らには新鮮な魅力に感じられたようだ。学生のお陰で田舎の魅力を再発見した。この強みを活かして今後の地域活性化につなげたいものだ。

勝手に書きます！
言いたい放題名作映画紹介

昭和43年度機械

乾 寛

第4回

さて、4回目である。先日（と言っても悠久誌が発行される頃には半年ほど前となるが）、朝日新聞夕刊（東京本社版）に「私の心に残る名画1本」という特集があったが、その中に、今まで紹介した6本のうち4本がリストアップされていた。「砂の器」「太陽がいっぱい」「道」「ショーシャンクの空に」である。自分の独断感動作として紹介しているのだが、案外まともな標準的な選択をしているのかな、と再認識している。ところが今回紹介する2本はそこにはリストアップされていない。しかしながら、毎回書いているように、決して失望はさせません。見終わって、必ず「あぁいい映画だった」と満足していただけると思う。一度見た映画は、ストーリーが分かってしまうため、再び改めて見る人は少ないかもしれないが、映画は音楽と同じである。良いものは何度見ても感動できる。今回もかなり古い映画であるが、レンタルショップ（最近はネット配信の方が手軽かもしれません）で借りることができる。

「奇跡の人」1962年

アーサー・ベン監督

アン・バンクロフト パティ・デューク

日本公開は1963年で、確か中学3年生だったと思う。友達のお父さんが一緒に連れて行ってくれた。はるか以前に廃館になってしまったが、徳島市の映画館OSグラランドだったと記憶している。そのときは特に印象はなかったが（若すぎたのか鑑賞力不足だったのか？）、その後見直して大いに感動させられた。今回改めて鑑賞したのだが、最後のクライマックス場面では毎度のことながら、静かに涙が溢れてきた。

誰もが知っているヘレン・ケラーは、生まれてまもなく病気で目も見えなくなり、耳も聞こえなくなった。当然話すこともできない。この映画は、彼女の世話役として雇われた家庭教師が、世話だけにとどまらず、さらに彼女を社会復帰させるために壮絶な訓練をする物語である。家庭教師アン・サリヴァン役はアン・バンクロフト、ヘレン役はパティ・デュークであり、この2人の訓練場面が実にすさまじい。それぞれこの年のアカデミー賞の主演女優賞と助演女優賞をかつさらっているが、さもありなん、である。とにかく凄い。アン・バンクロフトはこの映画の数年後に、映画「卒業」で、自分の娘の恋人（ダスティン・ホフマン）を誘惑する悪いおばさん役（サイモンとガーファングルの歌うミセス・ロビンソン）でゴールデン・グローブ賞も受賞する。さすがに芸達者である。また、パティ・デュークの演技も驚嘆のものである。完全に障害者になりきっている。監督が彼女の後ろで壺を落とし、彼女がびっくりして振り返ったとき、「君は耳が聞こえないのではないのか」と怒ったという。それほど力の入った演技である。訓練場面の詳細説明は野暮というもの、実際に鑑賞してほしい。

冒頭は、病気のせいで生後間もない娘の目が見えなくなり、耳も聞こえなくなった場面から始まる。母親の絶叫の場面から一転、もの悲しげな音楽とともに、少女ヘレンが庭をさまよっている場面がタイトルバックで流れる。ここで観客は「かわいそうなヘレン、これからどうなるの」と感情移入する。しかし、何度も見ていると決してそうではないようにも思える。単に目が見えなくてさまよっているのではない。何かを求めて、なんとか今の状況から飛び出したい、ともがいている姿に見える。そしてサリヴァン先生が、アメリカ北部のボストンから呼ばれて南部のアラバマ州まで列車で来るのだが、この車中で彼女の生い立ちがフラッシュバックで説明される。両親がいなく、自身も目が悪く、弟も足が不自由ということで施設に入れられるが、苦勞しながらも最悪の環境下を生き抜いてきた、ということが示される。どうやら模範生だったらしく、その経験を活かして、これから教師として働こうとしているらしい。列車の轟音とあいまって、彼女の信念やこれからの教育方

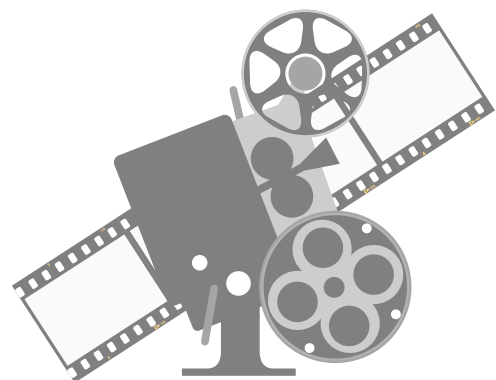
針に、いやがおうでも期待が高まってくる。

かわいそうな娘に対する家族の愛情と、サリヴァン先生の厳しい教育方針との戦いも大きなテーマなのだが、お互いの気持ちに分かりすぎるほど理解できるので、もう画面からは目が離せない。両親にしてみれば、娘の行儀がよくなり、暴れることもなくなれば、それなりに満足できる。しかし、暴力も厭わず厳しく訓練される（今で言えばパワハラまがいである）娘を見ていると、娘が不憫で仕方ない。当然、「もういいよ、もうやめて」ということになる。そんな葛藤の中で、サリヴァン先生はヘレンを両親から離し、スパルタ教育を続ける。我慢することや礼儀も分からせようとするのだが、最大のポイントは「言葉」を教えることだった。物には名前があり、言葉があるから会話ができる。これからの社会生活の中で言葉を教えることが最大のポイントだった。人間の脳は非常に良くできていて（でき過ぎとも思えるが）、手が機能しなくなれば足がその代わりを果たす。足の指で箸を握ってご飯を食べることができ、字や絵を書くことができるように脳が発達するという。視野狭窄になっても、網膜の欠落部分を脳が勝手に想像し穴があいた部分をふさいでしまう（したがって自覚症状がない）。スキー場で目の見えない子供たちのグループに遭遇したことがある。目が見えないのにスキーなんて危険ではないのか、と思いながらもボランティアで支援させてもらった。なんと彼らは鈴の音を頼りに健常者と同じようにスキーを楽しんでいた。聴覚が異常に発達し、視覚と同じレベルで位置を確定することができるのであろう。目が見えず、耳も聞こえないなら、残りの感覚は臭覚、味覚、触覚しかないが、外部情報収集のためには、おそらく触覚は並外れて発達していたのだろう。かなり昔に出会った印象深い1枚の写真がある。1人の少年が深刻な顔をしてタンバリンを持っていた。なんと、彼は耳が聞こえないので、タンバリンの皮に指先を当てて、その振動からオーケストラの演奏を聞いて（感じて、と言うべきか）いたのだ。おそらくヘレンもそうだった。したがって、「指文字（私が勝手にそう呼ぶのだが）」ほど最適なツールはない。指をアルファベットの形に曲げて触覚で相手の手のひらに単語を伝えるのである。アルファベットは非常に単純な形をしていて、しかも26種類しかない。日本語では少し難しいかもしれないが英語ではうってつけである。敏感な皮膚感覚は、相手の指の形を読み取ることは簡単で、かつ自分から発信することも何ら問題ないであろう。しかし、問題は、言葉に意味がある、ということを理解させることである。サリヴァン先生の最大の悩みもそこにあった。本来頭のいいヘレンはすぐに指文字を覚えたが、それは「物まね」の域を出ない。

訓練は続けるのだが、娘を不憫に思う両親からついに期限を切られてしまう。訓練は途中で中止せざるを得ない。へたすると、今までの2人の努力が水の泡になりかねない、とサリヴァン先生は恐れるのだが、まさにその通りとなってしまうのである。ここが、この映画の最大の山場である。

賢いヘレンではあるが、両親と離れた訓練よりは、今まで通りの自由な生活が楽しいに違いない。久しぶりの一家団欒の食事の時に、一気に元のわがままな態度に戻ってしまう。子供にとってはあたり前だ。それなりに成長した娘の姿に大満足していた両親は、今日は娘の歓迎パーティーだから大目に見て、と言うが（無理もない）、サリヴァン先生は許さない。スパルタ教育の復活だ。ヘレンが痲癩を起こし、水をサリヴァン先生にかけてしまったため、サリヴァン先生は空になったポットをヘレンに持たせて井戸まで無理矢理に連れて行く。2人の心の高ぶりがきっかけになったのか、この場面でヘレンがついに壁を乗り越えるのである。今までおりにしていたが、やっと両親のもとに帰って来れた。わがままな楽しい生活に戻れる。ところがそうではない。またうるさい教師が私にかまう。なぜそこまで私にかまうのか？興奮しきった熱い心のままに、敏感な手のひらが冷たい水に触れた。この時についに心のスイッチが入ったのである。私は勝手にそう解釈しているのだが、この時が物事に名前があることを理解した瞬間である。「water」から始まり、興奮して駆け出し、転びながらも「ground」「pump」「tree」「step」と手当たり次第に触れたものの名前を、ほとぼしるように先生に指で伝える。そして高らかに軒先の鐘を鳴らす（もちろんヘレンには聞こえないのだが）。ここで感動は最高潮になる。先生は外に飛び出してきた両親に大声で叫ぶ。「She knows!」と。まさにクライマックス、涙が静かに頬を伝う。でも、このブレイク・スルーは決して偶然ではない。期間が短いと思いつつも、自分の信念で、繰り返し、繰り返し訓練してきた努力があったからこそである。

この物語の内容が事実であったかどうかは知らない。映画だから誇張はあるだろうとは思ふ。しかし、信念を持った教育、訓練がいかに大切か、を教えてくれる。雇い主に疎まれながらも、なぜここまで献身的に教育に打ち込むことができたのか。普通なら、首といわれたなら「はい、さようなら」でいいだろう。でも、サリヴァン先生には「障害者」という同様の境遇があった。普通なら一生施設に埋もれていたかもしれないが、私は学校に行って社会に出たかった。苦勞したがその夢が叶って本当に良かった。ヘレンもそう思うに違いない。そういった強い信念があり、か



つ、ヘレンは賢く、十分に社会復帰できる素質がある、と見込んだからであろう。体罰を与えても分からせるべきだ、と考えたのだろう。ここには軽々しい、一般的な暴力非難の風潮なんてどこにもない。もちろん、憎しみだけの、あるいは何の意味もない暴力は問題外だが、状況によっては、暴力は必要なのである。私も息子(もちろん子供の頃であるが)や孫が言うことを聞かない時には頭を叩くことはある。言っただけではわからないのである。千本ノックやバレーの回転レシーブは訓練であるが一種の暴力とも言える。当然傷もできるし、むしろ平手打ちよりは肉体的ダメージは大きいだろう。でも、そのことを、確信を持って非難することができるだろうか？無条件に「体罰は廃止すべき」という風潮は間違っているとしか思えない。それではヘレン・ケラーは世に出なかつただろう。

感情論を横に置き、別の面からも考えてみたい。ヘレンの両親にしても、サリヴァン先生にしても、最終目標は「ヘレンの幸せ」だろう。幸いにも家庭は裕福で経済的には何の問題もない。両親にとってみれば、一生本人の好き放題にさせるのもひとつの方法であるだろう。一方、サリヴァン先生にしてみれば、社会復帰させることが彼女の幸せ、と思っているように見える。果たして本人にとってみればどちらが幸せだったろうか。もちろん社会復帰したヘレンは後者と言うだろうが、一般的にはどうだろうか。健常者で生まれ育ち、不幸にも事故か病気で失明し、あるいは耳が聞こえなくなったりした障害者にとっては、当然社会復帰しやすい環境を整え、訓練することが重要であることは当たり前である。しかし、生まれつきの障害者だったらどうだろうか。情報入力に皮膚感覚しかない状態では、ヘレン・ケラーのように社会復帰できるのは稀有の例だろう。無理して嫌な苦しい訓練をする方がいいのか、あるいは好き勝手に生活できる快適な環境を整備する方がいいのか。本人にとっては後者のほうが幸せではなからうか。判断レベルがどうであろうと、自分の幸せは本人が判断することである。もちろん、この意見には反対も多いだろう。現実には少数ではあるが必ず障害を持って生まれてくる子どもはいる。建前論ではなく、本音で何が本人のためにはいいのか、ということを実際に考えなければならないのではないのか。ただ、無責任かもしれないが、私には正解はわからない。

この映画のキーというか伏線には「キー、鍵」が大きな役割を果たしている。最初、サリヴァン先生が到着した時、あまりの厳しさに恐怖(?)を感じたヘレンは、先生の部屋のドアに鍵をかけて先生を閉じ込めてしまう。当然の防衛策だろう。ところが、その後の食事時には、ヘレンの家族を追い出した後、今度は逆にサリヴァン先生にドアに鍵をかけられ、二人きりの密室となつてしまい逃げられなくなってしまう。ヘレンにしてみれば完全に仕返しをされた格好である。そして、訓練を終えて歓迎の食事会が始まる直前に、ヘレンは食堂の鍵を母親に優しく手渡す。母親は喜んでそれを受け取るが、実はしっかりとした計算が働い

ていたのである。これから私は、嫌な教師から解放されるのだ。食堂に監禁されてはたまらない。ドアのキーは優しい母親に預けるのが最良の方法だ、と。サリヴァン先生の言葉を借りるなら家族を「試す」のである。そして最後の大反乱が起こるのだが、まさにその時に、あたかも水が流れるごとく、ヘレンの心にキーが入り込み、その扉が力強く開放されるのである。その夜、「愛情」とか「感謝」「尊敬」という概念も理解したかのごとく、やっと2人は本当の意味での心を通わせ、やさしく抱き合う。静かに世は更けていく。

「七人の侍」 1954年 黒澤 明監督 志村 喬 三船敏郎

今さら説明するまでもない黒澤監督の代表作で、日本映画の金字塔とも言われる名作である。あえて紹介する必要もないと思うが、思い出深い作品でもあり、また内容が極めて現代的な課題をも含んでおり、自分なりの解釈も紹介したいと思う。

高専2年生だったと思うが、その年の高専祭(文化祭)で映画鑑賞会を企画し、地理の先生だった寺戸先生の強力な推薦でこの映画を上映メニューに加えたのである。「絶対に『七人の侍』がおもしろい」と太鼓判を押してもらったことを今でもはっきりと記憶している。映写機は16mmアーク式(炭素棒のスパークを光源とする映写機)で、徳島市の東映映画館から借用した記憶がある。菓子折りを下げて無理に頼んで、軽トラックに積んで学校まで運んでもらった。若いとはいえ、恥も外聞もなく無理なお願いをしたものだと思う。しかし、その一方、そうした無理を聞いてくれた良き時代でもあった。フィルムはどこから借りたのか記憶はない。もちろん映写機なんて扱ったこともなく、取り扱う資格もない。簡単な操作方法のみ教わって、夜、階段教室に寮生に集まってもらって映写練習兼リハーサルを行った。この時に初めて、サウンドトラックやコマ送りスプロケットの仕組みを理解した。16mm映写機でなぜ35mmワイド版映画が映写できるか？実は、左右を半分に縮めて16mmフィルムに収め、映写するとき特殊のレンズを通し、左右を2倍に拡大するのである(「七人の侍」はスタンダード版である)。光源は発熱量も多く、スプロケットが空回りしてフィルムが送れなくなるとフィルムは加熱され燃えてしまうから、映写は極めて危険である。校内でよく許可が出たものだ(いや、黙ってやったのかもしれない)。若い時にはリスクが多少あってもなんでもチャレンジしていた。そのことが決して良いとは思わないが、懐かしい思い出である。

前置きが長くなった。3時間を越える大作であるがストーリーは極めて単純である。時は江戸時代、毎年のように野武士に襲われる農村が、自衛のために侍を用心棒として雇い、見事に野武士を追っ払う。それだけであるが、そのプロセスが非常に面白いのである。これが映画の醍醐味

と言える（実際には個人的にはそうは思っていないのだが…）。その証拠に、ハリウッドでも西部劇としてリメイクされ大ヒット作となっている（「荒野の七人」）。ただ、その「おもしろさ」は実際にこの映画を見ながら感じてもらえれば良いと思うので下手な紹介は控える。

冒頭、「現代的な課題」と書いたが、小さな農村部落を国家に置き換えれば、この映画は今の国際情勢の縮図と全く同じなのである。いや、昔も今も、いつの時代も同じ、と言ったほうが正確かも知れない。警察力が全く機能しない江戸時代の山村でひっそりと暮らしている人々がなんの理由もないのに襲撃を受け収穫物を略奪される。村人にとってはこんな理不尽なことはない。彼らは集まって対策を検討する。現実にもそういうケースが多かったかどうかは不明だが、しっかりと民主主義が機能している。戦っても勝てる見込みがないのだから、最初から降参してできるだけ被害を小さくする他に方法はない、という消極派と、何とかして野武士を退治しなければ村の将来はない、という積極派が対立するが、村の長老の経験に基づいた判断で後者の方針が決まる。ここでも理想的な自治が行われている。そして観客は誰もがこの村の方針に納得するだろう。野武士と会談を開いて村を襲わないように説得する、なんてことはあり得ない。現在、我々の周りでも常に事件は発生している。もちろん、今は、野武士はいないが、殺人傷害事件や泥棒は絶対にゼロにはならない。家に鍵をかけない人はいないだろうし、警察をはじめとする治安システムは不可欠である。安全対策は必要コストである。ヨーロッパの平原の田舎を旅するとあちこちに昔の城壁が残っている。彼らは、昼間は城外で農耕をし、夕方になると城内に帰り、扉を閉ざして安全を確保したらしい。平原であるから常に外部からの襲撃には備えていたようだが当然のことである。長老（政治リーダー）のあるべき姿、代官所は村の安全対策は何もしてくれないという実態、個々の家族単位ではなく村全体として戦わなければ勝てないと村人を諭す場面、刀や槍はやはり鉄砲には勝てないという事実、それぞれが現在の日本の姿と重ねて見ることができる。人間は動物として必要な闘争心を本能的に持っている。また、自

分自身の生存欲求もそれ以上に強く持っている。弱者襲撃は昔からあり、今後もなくならないだろう。しかし、断っておくが私は決して軍事力強化推進派ではない。現実を見据えつつも、社会的動物として、人間として、争いのない世界を目指す努力は怠ってはならない、と思う。このような大枠の中で物語は進んでいく。

しかし、その流れの中で黒澤監督はさまざまなスパイスをふりかけている。虫けらのような弱者として描かれている農民が実はそうではなかった。甲冑や刀、槍などの武器が続々と出てきた。落ち武者狩りで剥ぎ取ったものを隠して保管してあったのだ。常にビクビクしながら生きているように見えても、一旦、相手が弱いとみるや攻撃し略奪するのである。したたかというか、しぶといというか、常に被害者と思われている農民にも、弱肉強食の理論はしっかりと根付いているのである。たまたま、偵察に来た一人の野武士が捕らえられ農民の前に放り出される。まさに強者と弱者が逆転した場面である。多くの農民が日頃のリベンジとばかり殺しにかかるが、七人の侍たちは、武士の論理からなぶり殺しを諫める。しかし、長老の一言で侍たちの意見は遮られ、その野武士は殺されることになる。それも、以前に家族を殺された老婆がよたよたしながらも一人でクワを振り下ろして。ここは印象的な場面である。前半の山場でもある。ところが、その殺人場面はないのである。力ない老婆になぶり殺しにされる場面はどうしても挿入してほしかった（監督は、娯楽映画に残酷な場面は不要、と考えたか…）。

七人の侍のうちの一人は百姓出身である。三船敏郎演じる菊千代である。腕力には自信があり、百姓に嫌気がさして武士になろうとしたのだろうが、結局農民のためのボランティアとして働く事になる。戦闘中に孤児となった赤子を抱いて「これが俺の本当の姿だ」と号泣する場面もあるのだが、彼が武士になったいきさつの詳しい説明はない。彼の役柄は狂言まわしでしかない。農民対野武士の戦いの中にも笑いを振りまく役回しになっている。娯楽映画としてはそういう要素も必要なのだろうが、個人的な好みから言えば、この映画は徹頭徹尾シリアスに描いてもらいた

よろず
伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の知恵だけでは不十分な点もあろうかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡い

ただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 阿南高専学生課

阿南市見能林町青木265

TEL 0884-23-7132

FAX 0884-22-4232

MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

かった。弱肉強食の不条理な戦いの映画なのである。チャラチャラした笑いは不要である。悲劇一辺倒としてもいい映画になると思う（全く個人的なこだわりであるが、同監督の「羅生門」はこのような娯楽要素は極めて少ない）。彼が話す内容から、本来の農民は案外したたかだ、ということが分かってくる。武器だけでなく、どんなに貧しく見えても、酒や米もどこかに隠してある。実際に、決戦前夜にはどこかから酒が出て振舞われるのである。徹底的に貧しくても、実はどこかに食料を隠しており、絶滅だけは避ける、という動物的したたかさを表しているのか。この映画は、何回も書いているように、結局は農民のしぶとさ、に行き着いてしまう。

終盤の雨の中の戦闘シーンは大迫力であり、何人かの犠牲者を出しながらも結果的に野武士を駆逐する。めでたし、めでたしの娯楽大作であるのは間違いないのだが、ちょっと深読みをしてしまう。最後の田植え祭りで映画は終了するのだが、喜々として田植えに興じる村人たちを見て、志村喬演じる七人の侍の指揮官勘兵衛は「戦いに勝ったのは我々でなく百姓たちだ」と言う。つまり、完全に利用されただけだ、と思ったのか。しかし、その顔は笑っていた。百姓たちは実にたくましいし、したたかで、しぶとい、ということに改めて感心したのではないか。そして、これから日本もたくましく、したたかに、しぶとく生きていかなければならない、と黒澤監督は言いたかったのか。公開された1954年は戦後やっと10年経った頃である。

もうひとつ言っておかなければならない。七人の侍の内の一人が村の娘志乃と恋に落ちる、という誘惑される。

戦い映画の中の一つの清涼剤のような役割も果たしているのだが、木村功演じる若い武士勝四郎があまりにも純情すぎてひ弱なのである。相手の求愛にもドギマギするだけだ。武士という権力、身分を持ちながら常にリーダーシップを奪われ、じつにだらしがない（と言ったら言い過ぎか）。見方によっては、ほのぼのした感じもなくはないが、建前が本音にほんろうされているように見える。恋愛感情というのは、本来生物が持っている闘争本能と同様、生殖本能に根ざすものである。武士であればこそ（典型的な建前）、野武士と戦う本能は、死も覚悟するほど鮮明に発揮するのだが、もう一方の本能に関してはからっきしダメ。極めて対照的である。これも娯楽映画のひとつの要素、と言ってしまうればそれまでだが、それにしても最後の田植えの場面での志乃の表情は印象深い。好意を持った男と添い遂げたにも関わらず、別れることを全く恐れていない。一瞬ではあるが、彼女の表情から「野武士もいなくなったし、優柔不断なあなたにはもう用はないわよ」とのメッセージを間違いなく感じた。ここでも勝ったのは武士ではなく百姓である。これからは女性も強くなれ、という黒澤明監督のエネルギーと見るのは深読みし過ぎか。

蛇足：先日（11月6日夕方）、TBSラジオで、英語以外で制作された全映画のランクが放送されていました。イギリスの調査らしいですが、なんとベスト1は「七人の侍」でした。ちなみに日本作品はベスト10に3作入り、「東京物語」が第3位、「羅生門」が第4位でした。



赤い手帖 (28)

昭和45年度電気 森田 虔児

ここ数日の他愛ない夢見に、家内が何度か現れた。お互いの健康状態は良好で、しかも家内の方は定年までまだ5年余りを残している年齢であり、不吉な前兆ではなからうと信じている。今月（11月）、息子が36歳になったので、われわれ夫婦は、結婚後37年余りが過ぎた事になる。結婚前の交際期間を加えると、家内とは42年以上身近に過ごしており、特に最近では、家内の外出（出退勤や買い物・美容院・レジャー等）について、全ての送迎（同伴）を小生が担っており、プライベートな時間帯は殆ど一緒に居るわけで、いまさら夢の中に家内が登場するとは不思議なものである。ただ、最近気付いたのは、小生の湯上りを見届けるまで、家内は必ず起きているという事である。新聞等に依ると、入浴中の老人の死亡事故（熱中症・ヒートショ

ックによる発作や溺死）が、実は交通事故死の約5倍だそうなので、家内の配慮はむべなるかな、と有り難く受け止めている。振り返れば、家内に教えられ、子どもや孫の成長に導かれることの多かった半生であった。

「平成」の時代が、間もなく三十年間余で終わろうとしている。かつて我々の世代が「明治」の年号に対して擁っていた感触を、「昭和」の年号で彷彿とする世代がいずれ出現することであろう。

小生は昭和46年（1971年）に入社し、会社創業の地において、高専・大学（院を含む）卒業の（本社採用）新入社員総勢1252名に対する、約10日間の導入研修を受けた。その後、全国に展開する約30の研究所・事業所に分散して行った訳であるが、この研修期間中には、社長をはじめ役員の話や創業地区での工場見学などが続いた。余談であるが、当時まだJリーグの発足前であったに関わらず、「サッカー一部に入社した人達」が、別メニューのため、研修開

始早々から抜けて行ったのは印象的であった。また、小生が昼休みに、たまたま研修会場の玄関付近に居合わせたところ、午前中の講話を終えた副社長（当時は、社内で「プリンス」と扱われ、数年後に社長となった）が眼前で社用車に乗り込む際、「本社にも遊びに来てください」と小生に気さくに一声かけてきたのには驚かされたものだ。

研修終盤に、小生が希望する事業所（工場）への配属がいとも簡単に決まり、研修散会の翌日、同期入社約50名が当該勤務地に異動した（その中には、30年後に社長となった人も含まれていた。）ところが、輸出事業に注力していた配属先では、R・ニクソンショック（ドルショック）の打撃をもちに受けたためか、例年は初夏までに決定する新入社員の配属職場が確定せず、我々は、まる一年間を「総務部勤労課所属」で過ごしたのである。その間は、事業所内新入教育や製造現場実習をはじめ、自衛消防隊での毎週の防災訓練や、事業所幹部とのソフトボール、懇親会などに明け暮れる毎日であった。時には、（事業所採用の）新人女子社員達とのピクニックなどが企画され、観光地で終日ゲームやフォークダンスに興じるような機会も与えられた。

かかる「受入れ配属先なし」の洗礼をいきなり享けたことから、元々企業内（機械・電気・ソフト部門主体の業容）で自らの人生の夢を追う可能性が薄かった印象のある、京大の数学科卒や、東大の物理学科卒の人達が、いち早く退職した。また学習院卒の人は、学生時代に引き続き古墳を掘るんだと、また東北大卒で司法試験の合格者は、やはり弁護士として社会（弱者）支援活動をしたと、時をおかず離脱して行った。さらに、本社主催の研修時代から小生と懇意にしていた慶大経済学部卒の人も、当時まだ勢いのあった社会党幹部議員の秘書として転出していった。また、中には失踪同然に姿を消した同期生も居た。片や、時勢とは申せ、経営環境の悪化に難儀していた会社（事業所）側も、新卒者のこのような「淘汰」に内心は期待している節すら感じられた。

勤労課所属期間の中盤には、事業所幹部（工場長ほか）に、配属の促進を要求した「団交」を試みた日々もあった。折衝の実現には到ったが、事態の打開に結びつくことはなかった。幹部に直訴する準備打合せの際、同期生の全員が肩を組んで「インターナショナル」を合唱する場面もあり、さすがに「全共闘世代」の面々だと感心した。

結局、初年度のかかる「モラトリアム」期間の影響で、当該事業所に配属された学卒の同期約50名のうちの、およそ3分の1が退社してしまった訳である。それら退職者のうちの幾人かは、社内ですっかり生涯の伴侶を見つけて去って行ったようである。

このような背景があり、小生が最初の職場で実務に携わったのは、入社2年目のことである。そして、更に1年が経った昭和48年の春、先輩方が開発・設計した装置の技術確認（他社と合同の商用試験）に初めて独りで出張する機会を得て、東北地方に赴いた。

当時は保守要員の省力化目的での、無人サイトの導入が盛んに行われており、この時の商用試験対象装置も、省力化を実現する遠隔制御に関する製品であった。具体的には、障害情報の転送・表示と罹障機器の切り離しを、親局からリモートコントロールで速やかに実施する機能を有していた。この時代のシステム共通機器は、回線系のみでなく制御系においても、いわゆる「デュアル運転」でなく、「N+1方式」と呼ばれる冗長構成をとっており、常時は予備機の1台も稼働（負荷分散）させておき、罹障を検知した際に、当該機器1台をシステムから切り離す（障害解消後には復帰させる）運用とし、障害機器での呼損（ロス）を防止し、処理トラフィック容量の維持を目指していた。

さて、塩釜や七ヶ浜などを拠点とした、1週間の技術確認が滞りなく終わり、金曜日の午後は撒収・移動時間となった。当時は土曜日にも出勤の時代で（フレックス勤務もなし）、明朝は当然ながら出社して、出張報告の必要があった。ただ、この機会に日本三景のひとつである「松島」を少しでも観光してみようと考え、帰路は、当時運行していた夜行の急行列車を活用することにした。そして、仙石線の塩釜から石巻行きの電車に乗って北上し、途中の松島海岸駅で降りてみたのである。

松島海岸駅に到着した時、すでに午後の比較的遅い時間帯となっていた。駅のすぐ前に湾内遊覧船の船着き場があり、丁度最後の観光客を降ろしたばかりの船が接岸していた。船頭さんに尋ねると、「人数がまとまれば、船は出せる」とのことであったが、これは断念して、取り敢えず瑞巖寺方向に歩いてみた。途中で「福浦」という看板の文字が目についた。同じ地名を金沢八景の辺りでも眼にしたことがあり、漁業を生業とする地域では、類似の地名が各地に存在するのだろうと想像した。海沿いの道の、不規則に地表に現れている松の根に足を取られながら、瑞巖寺の門前に到ったが、こちらも閉まったばかりのようであった。無計画な思いつきの旅では、どうも空回りだと自省しながら、波打ち際に立ち、夕焼け空に映える海面に、一艘のポンポン船が帰港する風景を、ひとしきり眺めたあと、松島海岸駅に引き返した。春先とはいえ、駅のホームに戻ったころには、すっかり陽が落ちていた。

それは、東日本大震災（2011年）よりは随分前のことであり、かつて芭蕉も眺めた風景とほぼ変わらない松島湾を、小生も観ることが出来ているのではないかと感慨深かつ

た。そして、今後そう度々訪れることはないだろうと、暮れなずむ夕空と島並みを眺めていると、「次に来るのは、仙台行きでしょうか」と、脇から不意に訊ねられた。振り向くと、よそ行きのなりをした17歳くらいの少女が立っていた。

成り行きで、その少女と仙台まで帯同した。この時間のローカル線の上りの乗客はまばらだった。彼女は、Yという町から来たと言ったが、宮城県に疎い小生には馴染みのない地名であった。何でも、横浜の兄を訪ねる目的だそうで、マリントワー（昭和36年開業）には、以前に行ったことが有るような口振りであった。ただ当時22歳の小生は、この年齢の少女と話した経験に乏しく、お互いに訥々とした会話ではあった。彼女は、姓をSといった。そして名の方は「こうこ」と答えた。今なら「香子」や「晃子」などの字も思い浮かぶのであるが、小生には初耳の名前で、聞き違えたかとも感じたが、聞き直しはしなかった。

会社の始業が朝8時のため、明朝に小生は独身寮に寄らず、直接出社の予定にした。仙台に着いてから、その少女も上野まで同行することになった。国鉄の出札窓口でポシエット風のガマ口からお金を出した彼女は、小生と同じ切符を買った。思いがけないローカル駅での出会いで、最初は家出少女の気配もあり、お金を持っていないかも知れぬ、と余計な心配もしたが、どうやら旅費には困っていない風であった。

仙台から乗った上野行きの夜行列車内には、そこそこに乗客が乗って居たが、我々ふたりがボックスシート（4人掛け）を独占して、向き合って座れる程度の込み具合であった。大抵の乗客は静かで、通路を挟んだ列のふたつ程先のボックス席で、中年の男連れが、酒でも飲みながら談笑しているのが目立つ程度だった。

夜も更けて、幾つかの駅を過ぎた頃、「横になるか」と彼女に訊くと、小さく頷いて小生の隣に来た。そして、靴を脱ぎ座席の上で膝を折って、小生の方に顔を向け、小生の膝に頭を乗せた。小生は、持ち合わせていた（学生時代の）水泳同好会の緑色のジャージの上衣を彼女の上半身に掛けてあげた。少女は、幾分嬉しそうに小生を見て、窮屈な姿勢ではあったと思うが、眼を閉じてまどろんだ。ほどなく、少女は微かに寝息を立て始めたので、小生もつられてウトウトしはじめた。ふと気付くと、便所の帰りなのか、いつの間にか、あの談笑していた席の、男連れのひとりが、我々の居るボックス席に来ており、向かい側のシートに座り、少女の姿をしげしげ覗いていた。そして、目覚めた小生と眼が合うと、そそくさと自分達の席にもどって行った。小生は迂闊に眠るのは止めた。かかる経緯には全く気付かなかった彼女は、相変わらずスヤスヤと、5時間ばかり眠っていた。

上野駅に着いたとき、始発の電車まで時間があったので、上野公園でも散歩しようかと誘うと、少女もついて来た。ところが、公園エリアには、浮浪者でもない野宿したかのような人達が大勢屯していた。この頃より少し後の時代には、イラン人等の実質的な移民が上野公園を占拠する事態を招いたようだが、この当時、すでに日本人自身の群衆が野宿する兆しがあった模様である。その光景は、さながら堀田善衛が旅して著わしたインドのよう（さしずめ、男ばかり）であった。公園内のプロムナードの両サイドに居座っている彼らは、小生が連れした少女を見掛けて、卑猥な言葉をかけ始めたが、意外と平然としている彼女の神々しさのようなものに気圧されたのか、すぐに静かになり、近寄って来る者はなかった。上野駅方面に、やや足早に引き返しながら、背がすらりと高く長い髪の彼女が、色白で整った顔立ちをした清楚な美少女であることに、小生は改めて気付いた。駅構内に戻ると、ようやく食堂が開店していたので、「朝ご飯にしようか」と誘ったところ、遠慮したのか固辞された。すでに仕事モードに戻っていた小生は、杜撰なことに、そこで彼女と別れてしまったのである。

その日の朝、定刻に出勤した小生は、出張の報告を先ず上長にした後、東北（青森）出身という入社10年目の先輩に、さりげなく昨晚以降の出来ごとを話したところ、「隔地出張の帰りだし、何も律儀に出勤しなくて良かったのに。目的地まで付き合ってあげるのも大切だよ」と笑いながら言われた。



平成 29 年 12 月 1 日「サヨナラ平成」

皇室会議が開かれ、平成 31 年 4 月 30 日に天皇が退位され、5 月 1 日に皇太子が天皇になることが決った。1 月 1 日の方がキリがいいと思うが、いろいろ都合があるようだ。せつかく「平成」が身に染みついたのに、また次の元号が心身ともに染みつくには、昭和 25 年生れの私にとってたいへんなことである。80 才までかかるだろう。それまで頑張らなければならない。

平成 30 年 1 月 1 日「家で世界旅行」

ここ数年、年賀状の中に夫婦で海外旅行をしたときの写真付きのものが増えている。私の世代では退職している者も多

く、時間の余裕と嫁への罪滅しの意味もあるのかなと思う。

私の机の前には世界地図が貼りつけてある。外国へ行ったことのない私にとって、地図を見るだけで世界旅行を味わうことができる。緯度だけで見ると徳島はカサブランカ、バイルート、西安、ロサンゼルス、アトランタと同じらしい。同じ空気を吸っているかもしれないと思うと楽しくなれる。これは私の負け惜しみだろうか。

2月21日「名脇役」

大杉蓮さんが66才で急逝した。徳島では板東英二と並ぶ有名人である。彼は南小松島から、私の家の近くにある城北高校へ通っていたらしい。ということは、2年間であるが私はJR牟岐線（当時は国鉄）で毎日すれ違っていたことになる。もっとも私だけでなく、高専の3期生から6期生もかなりの人が該当する。

今日の民放も、NHKもニュースのトップにもってきている。他に大きな事件がなかったからかもしれないが、それだけ彼がすばらしい役者だったということだろう。

4月11日「博士の愛した数式」

私にとって4人目になる孫が生まれた。長女にとっては2人目の子である。少し高齢の長女のため心配したが、陣痛から2時間ほどで安産だった。

4人の孫のうち、生まれ月は違うものの、3人が11日生まれで、あとひとりが22日生まれになった。4人ともゾロ目である。それがどうした、と言われればそれまでだが、「博士の愛した数式」という本の中に11、22はさわやかでスッキリした数字だと博士は書いてあった。

6月17日「いつものこと」

セパ交流戦が終った。阪神は6勝10敗で11位、メッセンジャーひとりでは勝てない。「諸悪の根源はロサリオと藤浪だ」とスポーツ誌と解説者は言っている。3月のオープン戦のころ「阪神史上最高の外人選手ロサリオ！」と連日言っていたのは誰だ。

セ・リーグは広島が抜け出している。あとの5チームはどんぐりの背くらべになっている。巨人にしても菅野ひとりでは勝てない。他のチームにも「ロサリオ、藤浪」がいるということか。そう思って自分を慰めている。

7月29日「台風12号」

普通、台風は南の洋上で発生し、沖縄を通り九州、四国に上陸、もしくはかすめて北上するものだ。だが今回の12号は、今朝三重県伊勢市に上陸し、奈良、大阪を通り瀬戸内沿いから福岡へ行き、夜9時に東シナ海へ抜けた。

前代未聞のコースだったが、天気予報は台風が発生したときから完全にこのコースを予想していた。気象科学の発達の結果だろう。正直言って「そんなコースを通るはずがない」と思っていた。恐れいりましたと言うしかない。

8月11日「半端ない」

台風12号のあと、西日本では35～40℃という日が続いている。7、8年前だったと思うが、ビールとクーラーのせいで体調を崩したことがあった。体を冷してはいけないと誰かの助言があり、そのときからビールをやめて焼酎の湯割りにした。そしてクーラーもやめて部屋の障子を全開にして扇風機だけにした。暑いのにはわかりなかったが、体調はととてもよくなった。

それ以来、扇風機だけで乗り切ってきたが、今年の夏の暑さは、サッカーの大迫のごとくで半端なかった。とうとうクーラーのスイッチを入れた。それくらい暑かったということだ。

8月16日「一番すばらしいニュース」

今日は、今年の日本で一番すばらしいニュースの日になるだろう。3日前山口県周防大島で2才の男の子が行方不明になり、絶望視されていたが今朝無事見つかったことだ。

警察・消防・地元住民など3000人体制で2日捜したのに見つからなかった。しかし今朝から捜索に加わった78才のじいさんが、わずか30分で見つけたという。もしかしたらこのじいさんが関わっているのではないかと疑ったりしたが、今は反省している。

9月25日「JA」

第15回徳島市農協主催のゴルフ大会が「六甲国際カントリー」で行われ初参加した。今までも誘われていたが「この腕ではそんなところへは行けない」と断っていた。しかし中学の先輩にくどかれて参加した。無風で晴天だった。スコアは書きたくない。

百姓屋のおっさんがゴルフをするなど、50年前には考えられないことだった。田中角栄の日本列島改造論から地価が上り、今まで手にしていた鍬をゴルフクラブに持ち替えてしまった。危機に瀕しているJAがこれでいいのかと思う。

11月10日「50周年」

悠久同窓会創立50周年の記念式典と懇親会が徳島駅のホテルクレメントで行われた。式典は現役4年生の桑原君の司会で始まった。顧問の高橋さん(1M)、実行委員長の安平君(3C)、校長の寺沢先生、同窓会長の兼松君(11M)のそれぞれ想いのこもった挨拶があった。最後に同窓会活動に貢献したとして5人に感謝状が贈られた。まず初代東京支部長の喜多さん(1M)、大阪支部長の宇野さん(1M)、徳島支部長の福富さん(1M)の3人に贈られ、そのあと阿部君(1C)と私には「投稿の回数が多かった」ということで贈っていただいた。

私としては、ただの日記を投稿するだけで、感謝状をいただくなど心苦しいところもあった。たぶん実行委員長の安平君と、選考委員の横手君(9C)は落研の後輩であるので、私に対して「村度」があったのではないだろうか。この場合の村度は正しい使い方ではあると思う。

また今回同窓会の「基調講演」をしたのが住友君(11M)

で、懇親会の司会をしてくれたのが桂七福(中川君(18M))だった。2人とも落研OBである。三谷先生が今回出席されなかったのが残念である。

今日はたくさんの人に会ったが、その中で久しぶりに会った人のことを書いておく。

① 中川君(3C)のこと

昨日のゴルフ大会での彼のスピーチで中川君だということがわかった。たぶん30年は会っていなかっただろう。紅顔の美少年だった彼も今や白髪の立派なじいさんになっていた。しかしバイタリティのかたまりだったのはいまでもそのままで「人生を楽しんでいます」とニコニコして言っていた。

② 長田君(3C)のこと

彼とは一面識もなかった。たまたま中川君の隣に座っていた。胸につけた名刺に「岩浅建設専務取締役」という文字に気が付き思わず声をかけてしまった。

5年生のとき、私は津乃峰町の「吉崎建材店」に下宿をしていた。吉崎のばあさんに「岩浅のお譲さんの家庭教師をしてくれないか」と頼まれた。そして1年

間岩浅家に週に2日行くことになった。その時小学校4年生だった。そのお譲さんも58才になり、岩浅建設の社長夫人になっているという。一度会ってみたい気もするが、会わない方がいいかなとも思う。

③ 鎌田さん(3E)のこと

私の娘2人が日亜化学に勤めており、鎌田さんが日亜化学に勤めていることは知っていた。卒業以来50年ぶりに会った。残念ながら50年は余りにも長すぎてお互い全くわからなかった。入学して明正寮に入ったときの寮長が鎌田さんだったと思う。ひとつだけ覚えているのは、あの頃寮では「今月の歌」というのが流れ、ダークダックスの「銀色の道」が毎晩流れてきたことだ。たぶん曲を選ぶのは寮長だったと思う。いい曲だった。

11月15日「おわりに」

平成がおわることになった。私の「平成の日記」も今回で終了しようと思っていた。しかし、感謝状をもらってしまった。次の元号が何になるかはまだわからないが、日記を続けるかどうか迷っている。



母校校庭の樹木の散髪

昭和43年度電気 田村 実

創立後、半世紀を経て、母校阿南高専の校庭の300本を超える樹木が大きく成長し過ぎ、少しジャングル化(?)しつつあります。

日経産業新聞ではシリーズで、高専生の活躍を大きく報道し、世間の注目も一層高まっています。留学生、企業関係者の訪問も増え、社会の変化は著しいですが、キャンパスの美化は停滞中が現状です。

私は、「コーオペ教育」という、3年生から3年間に渡る阿南高専独自の長期インターンシップのサポートで、時々、母校を訪問します。4月に開催された悠久同窓会の50周年のパーティで、有志で剪定をしたいと呼びかけました。6月1日、2期の機械から3名、電気から4名、プラス知り合いの造園士とシルバーの方3名で、正門の左右のクスノキ、中庭の松、桜の剪定と芝刈りを行いました。10mを超えるクスノキの高所の剪定は、相当な作業。殆どが素人だが、「やる気」と、思い切りで頑張った。9時前からの作業は、4時に終了、実にさっぱりとなった。

6月9日に第二弾を実施したが、今回は5名で、正門左奥のクスノキを中心に剪定。

10月29日、保管し乾燥させていた枝木を、2tトラック(鳳凰機械の横手さんから借用)で3往復し、バイオマ

ス発電用のチップを供給している徳信へ輸送。これで、一区切り。

思いを実践するのは、簡単でないが、有志の協力で実行出来、多くの方から、スッキリした、見違えるキャンパスになったとの声。これ以上のご褒美はないが、今年で終わってしまうのでは変化CHANGEとならない。来年も、有志の協力を得て実施したいと祈願している。



【Before】

【After】



左から:阿部/出尾/今井/小山/岡本/田村/(浅野)

建設コースへの出前講座に参加して

昭和46年度土木 坂東義隆

悠久同窓会創立50周年おめでとうございます。

さて、徳島県技術士会の地域貢献活動の一環で、9年目を迎える徳島県技術士会主催の「建設コース」出前講座に、今年も参加した。技術士20名による4年生への出前講座を7月29日に、技術士12名及び修習技術者（技術士補）3名による3年生への出前講座を10月31日にそれぞれ開催した。

I. 平成30年度（今年度）の講座概要についての説明

(1) 4年生への出前講座

「技術士に聞いて見たいことや悩みを話して将来を考える」～就職・進学の見路選択に対するアドバイス～をテーマに、学生を5班に分け、学生からの質問に答える形式で助言を行った。

支援技術士20名のうち、悠久同窓会員は6名であった。

(2) 3年生への出前講座

「技術士の働く社会を知り、技術士と実際に話してみても、自分の将来を考えてみよう」をテーマに5班のグループワークを行った。

支援講師（技術士+技術士補）15名のうち、悠久同窓会員は8名と多かった。今回、修習技術者の前野夏希さん（45回建設）、大久保理恵さん（45回建設）、川田加奈子さん（47回建設）が初めて参加された。卒業後5年から7年の若手女性技術者達で、学生達に発表資料に対する適切なアドバイスを行うなど、さわやかな風を吹き込んだ。

また、グループワークの前に、蛇目卓央氏（27回土木）よりスピーチがあった。彼のお子さんと同年代の学生たちに、『土木（Civil Engineering）とは「市民のための工学」である』と、くらしに役立つ社会インフラをつくる土木の魅力について熱く語っていた。

II. その他

今後、少子化が進む社会状況のなか、自然災害リスクの増大や、橋などの社会インフラの老朽化の対応に向け、その役割を担う若手技術者の確保が喫緊の課題である。

平成26年の学科再編成により、建設コースの学生定員が、従前の40名から現在24名と大幅減になっている。建設コースの学生定員増を強く要望したい。

この出前講座は、当時学科主任をされていた島田登美男名誉教授のご尽力で始まった。毎年、この講座は進化している。ちなみに、昨年度の3年生への出前講座は、2回開催し「木製平棒を用いた橋模型コンテスト」であった。第1回講座では、学生が4班に分かれ、アイスクリームの平棒（150本まで）と接着剤を使った径間長36cmの橋模型の設計協議を技術士の指導のもと行い、設計の素案を作成した。構造力学を習い始めてまだ3か月の学生には、難しいテーマであったが、1か月後の第2回講座には、素晴らしい作品が完成していた。（写真-1）

載荷試験前に、「仕上がり・デザイン・アピール力」の評価項目で審査を行った。3班のトラス橋は、耐荷重72kgを記録し総合得点で一位となった。（写真-2）

まさに「橋の博物館とくしま」にふさわしい企画で、「モノづくりの楽しさ」を学生と共有でき、大いに勉強になった。

徳島県技術士会の出前講座事務局は、昨年度から山口博昭氏（15回土木）に変わり、お世話になっている。阿南高専の先生方とのパイプ役等、ご苦労も多いと思うが、後輩のためにこれからも頑張っていただきたい。

我々土木技術者は、「地図に残る仕事」に携わってきた。住民の利便性の向上に寄与している土木の重要性をこれからも伝えていきたい。



写真-1 橋模型の各班作品



写真-2 載荷試験

現役クラブだより

…体育部…

弓道部

平成30年度より、前任 西野精一先生のご指導を受けながら弓道部主顧問をつとめております、安田武司です。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度の弓道部は6名の新入部員を迎え、毎日放課後、はつらつランド弓道場でしっかり、ときには賑やかに練習に励んでいます。本年度は、キャプテン 坂東くん（3年生・総体まで）および上原さん（2年生・総体以降）を中心に練習に取り組み、第15回春季高校弓道大会では男子団体第3位、第25回50射選手権大会（高校の部）では山口くんが総合第1位に輝くなど記憶に残る好成績を収めることができました。7月7日、8日に高知にて予定されていた全国高等専門学校弓道大会中四国予選は、残念ながら平成30年7月豪雨のため中止となり通信大会形式となりましたが、女子団体が準優勝、2年生 新谷くんが男子個人第3位とこちらも良い成績をおさめ、8月29日、30日に鹿児島にて開催された本戦でも健闘しました。

今後とも、部員が一丸となり射技と的中の向上に励んでゆきます。

最後に、平成30年度弓道部の活動状況をお知らせします。

顧問 西野（機械）、坪井（一般）、吉田（化学）、
勝藤（一般）、安田（機械）

部員 5年生8名、4年生7名、3年生6名、
2年生14名、1年生6名

部長 上原明日香（2C）

練習時間 月～金の放課後（16時30分～18時）

最近の主な試合成績は次のとおりです。

◆第15回春季高校弓道大会

（4月28日、鳴門総合運動公園 大塚スポーツパーク弓道場）
男子団体 第3位（西岡、山口、大原、山本、坂東）

◆第5回全国高等専門学校弓道大会中四国予選

（7月7日、8日、平成30年7月豪雨により中止のため、
通信大会形式にて実施）

女子団体 準優勝（上原、太田、谷）・本戦出場
男子団体 第3位（西岡、山口、大原、新谷、坂東）
男子個人 第3位 新谷昇也（2Z）・本戦出場

◆平成30年度阿南市体育大会弓道競技

（10月20日、B&G 那賀川海洋センター武道館）
団体 優勝 阿南高専A（岩佐、山口、大原）
準優勝 阿南高専G（荒井、西岡、坂東）
男子個人 優勝 山口堅也（2E）、
準優勝 坂東璃音（3I）

◆平成31年射初め式

（1月5日、鳴門総合運動公園 大塚スポーツパーク弓道場）
高校の部 男子個人 準優勝 山口堅也（2E）
第3位 岩佐瑞樹（2M）
（弓道部顧問 安田武司）

テニス部

テニス部は現在総部員数46名で、1年生11名が新たに部員として加わり、うち女子3名の入部がありました。トレーナー講習は4年目を迎え、県トレーナー協会長山田佳宏氏により新たにパワーポイントを用いた座学により理解を促進し、体幹・ストレッチの実践を含めた座学・実技ハイブリッド講習を導入しました。学生から好評です。また、継続して香川県への遠征・合宿や県内校との練習試合と練習を交互に繰り返すフィードバックを実施し、身体能力と技術の向上を図っています。平成23年度から開始したシオンテニスクラブとの連携した強化練習は、河野一郎・阿紀子 両氏に多大なご尽力を頂き8年目となりました。さて、平成30年度の県高校総体男子団体は第3シードを獲得しながらも、「今年もいける」という慢心・油断から2回戦敗退（事実上初戦敗退）と振るわず、4年連続団体3位入賞も遠い過去に感じられ多くの反省が得られました。女子においても団体・個人戦で入賞はできませんでした。この反省に基づき夏季においては、高校夏季大会（1年生大会）で3回目の男子団体優勝を成し遂げたほか、女子団体・女子シングルスで初優勝の成果を得ております。今後、1年生の活躍により復活できそうです。また、四国地区高専大会では宿敵 新居浜高専を接戦の末に優勝を勝ち取り、男子団体5連覇を達成し、全国高専大会では四国高専初となる団体2連覇の偉業を達成しました。現在、この功績をたたえた懸垂幕が学校の校舎に掛けられています。また、全国高専大会個人戦では、男女ともにシングルス3位および女子ダブルス3位に入賞しています。一方、県高校新人大会 男子団体はシードが獲得できず、1回戦敗退しましたが、来年度県高校総体団体3位入賞を目指して、男女ともに低学年強化のため顧問・コーチ指導の下で練習に励んでいます。

なお、2019年度は全国高専大会が主顧問の出身地である山口県宇部市「宇部マテフレッセラテニスコート」で開催され、阿南高専初の団体3連覇および個人戦優勝へ向け、チームの絆の強化をテーマにさらに躍進していきたいと思っています。テニス部OB、OGおよび関係保護者におかれましては、高校総体団体（大神子）をはじめ、四国選手権（高知・春野運動公園）にも来場して頂き、熱い応援をお願いできればと思っています。

平成29年12月～平成30年12月までの活動状況をお知らせします。

主顧問 原野（機械）

顧問・コーチ

高岸（技術部）、大北（機械）、小曾根（化学）、
小林（電気）、長田（建設：米在外研究中）

部員 5年生8名、4年生11名、3年生11名、
2年生5名、1年生11名

部長 男子 藤本優輔 (5I)
 低学年キャプテン 川原滉太 (3E)
 女子 瀧根風香 (4M)
 低学年キャプテン 稗田華子 (1-2)
 練習時間 月～金の放課後 (16時30分～18時45分)
 土 (9時～12時)

平成29年12月～平成30年12月までの主な試合成績は次のとおりです。

◆第53回全国高等専門学校体育大会

〈第41回高専テニス選手権大会〉(パークドーム熊本)

団体 2連覇

(今川(3Z)・藤本(5I)・芝井(5M)・佐藤(4M)・溝渕(5M)・吹上(5E))〈四国地区高専初〉

男子シングルス 第3位 今川雄斗(3Z)

女子シングルス 第3位 森吉瑛里子(3Z)

女子ダブルス 第3位 瀧根風香(4M)・森吉瑛里子(3Z)

◆第55回 四国地区高等専門学校体育大会

完全制覇〈全種目優勝〉

男子団体 優勝

(今川(3Z)・藤本(5I)・芝井(5M)・佐藤(4M)・大西(5C)・溝渕(5M)・福德(3Z)・柏木(4M)・吹上(5E)・松田(2Z))〈5連覇〉

男子シングルス 優勝 今川雄斗(3Z)〈2連覇〉

準優勝 藤本優輔(5I)

男子ダブルス 準優勝 溝渕(5M)・大西(5C)

女子シングルス 優勝 森吉瑛里子(3Z)〈初〉

女子ダブルス 優勝 瀧根風香(4M)・森吉瑛里子(3Z)〈4連覇〉

◆平成30年度高校夏季大会(1年生大会)

男子団体 優勝

(岡田(1-3)・棚橋(1-4)・野口(1-2)・齋藤(1-2)・矢野(1-3)・窪田(1-1)・栗原(1-3))〈3回目〉

女子団体 優勝

(稗田(1-2)・河野(1-3)・田中(1-4)・増田(城東高校)・勝浦(城東高校))

女子シングルス 優勝〈初〉 稗田華子(1-2)

◆徳島ジュニアU18

男子ダブルス 準優勝 今川優斗(3Z)・矢野智大(徳島商業)

女子シングルス 第3位 森吉瑛里子(3Z)

◆全日本テニス選手権徳島県予選

女子シングルス 準優勝 森吉瑛里子(3Z)

◆国民体育大会予選(少年の部)

女子シングルス 第3位 森吉瑛里子(3Z)

◆JOC 選抜室内テニス選手権徳島県代表選考会

女子シングルス 準優勝 森吉瑛里子(3Z)

◆ダンロップスリクソンテニストーナメント徳島大会

女子ダブルス 第3位 森吉瑛里子(3Z)、橋本 響(城之内)

◆グリーンカップテニストーナメント

女子ダブルス 優勝 瀧根風香(4M)、森吉瑛里子(3Z)

◆県シングルス選手権

女子シングルス 第3位 瀧根風香(4M)

◆表彰(平成29年度戦績)阿南市テニス協会・阿南市体育協議会・四国高専体育協議会などからも表彰

優秀団体賞 今川雄斗・大西友樹・佐藤良祐・村口巧・芝井尚輝・藤本優輔(全国高専大会優勝)

優秀選手賞 村口 巧・佐藤良祐

(全国高専大会 男子ダブルス準優勝)

優秀選手賞 瀧根風香・森吉瑛里子

(全国高専大会 女子ダブルス優勝)

優秀指導者賞 原野智哉(全国高専大会団体優勝監督)

(テニス部顧問 原野智哉)

陸上競技部

陸上競技部の現況についてご報告します。2018年(平成30年)の陸上競技部は、高学年キャプテンの野口佑大(4C)君と低学年キャプテンの藤井佑衣(3Z)さんを筆頭に、4月に新入部員(一年生男子8名、女子2名)を加え、選手26名(うち女子選手6名)、女子マネージャー2名の部員総数28名で新たにスタートしました。顧問教員は、谷中俊裕(一般教養:英語)先生、藤居岳人(一般教養:哲学)先生、松尾俊寛(一般教養:物理)先生、赤山幸太郎(一般教養:英語)先生、伊丹伸(機械コース)と5名体制で、昨年より変更はありません。なお、4月より正式な外部コーチとして、現部員達からの信頼も厚い陸上競技部OBの麻植一輝氏に依頼し、指導を仰いでもらっています。

さて、2018年(平成30年)の陸上競技部の活動状況ですが、OB&OGの皆さん安心してください。部員達は2018年もすばらしい活躍(特にフィールド種目が躍進)を見せました。では最初に、高専大会関係について報告します。第53回全国高専体育大会陸上競技では、男女とも総合7位、男子三段跳で2位&3位のダブル入賞(阿南高専初の同一種目で2個のメダル獲得)、男子砲丸投と女子100mHで2位入賞、女子100mで3位入賞、第55回四国地区高専体育大会陸上競技では、総合優勝(18年ぶり3回目の3連覇達成)および個人種目7種目での優勝を達成しました。次に県大会関係について報告します。男子5000mWで21分39秒91の徳島県新記録(当時)および徳島県高校新記録樹立の快挙を達成(2018年一般財団法人徳島陸上競技協会優秀選手賞[高校生の部]を受賞)、第58回徳島県高校総体陸上競技では、男子フィールド部門総合3位入賞、第48回徳島県高校新人陸上競技大会では、男子フィールド部門総合優勝、第64回徳島駅伝では、第36区で区間賞および優秀競技者賞を獲得しました。残念ながら2018年の目標に掲げていた2年連続のインターハイ出場はおしくも達成できませんでした。



第53回 全国高等専門学校体育大会(パークドーム熊本)
 男子団体2連覇記念 平成30年8月24日

これらの活躍を象徴するかのよう、平成30年徳島県一般および高校陸上競技ランキングを今年も席卷しました。部員12名がのべ25種目にランクインし、そのうち7種目でランキング3位以内(4種目で1位)になっています。詳細につきましては、**徳島陸上競技協会ホームページ** <http://www.jaaftokushima.com/> に掲載されていますので、ぜひご覧ください。

2019年の目標としては、2年ぶりのインターハイ(沖縄県開催)および国体(茨城県開催)への出場、四国地区高専体育大会陸上競技の総合4連覇達成(実現すれば阿南高専としては初)、全国高専体育大会陸上競技の複数の個人種目でのメダル獲得を目指しています。好成績を維持していくのは難しいですが、精一杯頑張りたいと思います。OB & OGの皆さん、これからも阿南高専陸上競技部への御支援、御指導ならびに応援よろしくお願ひいたします。

最後に、以下に平成30年に出場した各大会(主要大会のみ)での上位入賞者の種目&順位&記録を列記しておきます。

《一年間の主な戦績[2018年(平成30年)1月から12月まで]》

- ◆第64回徳島駅伝 平成30年1月4日～6日
(南方[由岐]、北方、西方コース)
小松島市代表 大平 祐生(5C) 優秀競技者
第18区(8.0km) 25'05" 第2位
第36区(7.3km) 23'21" 第1位
小松島市代表 島田史也(3M)
勝浦郡代表 久保田直樹(1ES)
第3区(9.7km) 32'25" 第11位
第24区(8.9km) 30'02" 第4位
勝浦郡代表選手 森内 拓磨(1-4)
第31区(5.7km) 20'44" 第14位
- ◆第39回四国地区高専駅伝大会
平成30年1月27日(高知高専)
総合 第3位 1:32'33" (全6区間計25.5km)
区間賞 第4区(5.0km) 大平祐生(5C) 16'20"
第1区(3.5km):高橋(1-3)、第2区(5.0km):野口(3C)、
第3区(3.5km):林田(3E)、第4区(5.0km):大平(5C)、
第5区(5.0km):森内(1-4)、第6区(3.5km):島田(3M)
- ◆第9回高松市屋外陸上競技記録会
平成30年3月3日(屋島レクザムフィールド)
男5000mW 第1位 島田史也(3M) 21'39"91
(徳島県新 県高校新 阿南高専新 自己新)
- ◆第40回徳島陸上競技カーニバル
平成30年4月14日～15日(ポカリスエットスタジアム)
男棒高跳 第2位 谷 知篤(2C) 3m60
男三段跳 第1位 谷 亮磨(4C) 13m70
- ◆第89回徳島県陸上競技選手権大会
平成30年5月4日～5日(ポカリスエットスタジアム)
男5000mW 第3位 島田史也(4M) 24'29"78
男棒高跳 第2位 谷 知篤(2C) 3"90 自己タイ
男三段跳 第1位 谷 亮磨(4C) 13m80
- ◆第73回国民体育大会選手選考第一次予選会
平成30年5月4日～5日(ポカリスエットスタジアム)
男少年B砲丸投(5.000kg)
第2位 坂野翔哉(1-3) 13m12

- ◆平成30年度第1回徳島県陸上競技強化記録会
平成30年5月13日(ポカリスエットスタジアム)
男砲丸投(7.260kg)
第1位 梶野晃生(4E) 9m57
- ◆第58回徳島県高等学校総合体育大会陸上競技
平成30年6月2日～4日(ポカリスエットスタジアム)
男子フィールド 第3位 得点:31点
男走高跳 第6位 岩佐隼東(1-4) 1m70
男棒高跳 第1位 谷 知篤(2C) 3m90(自己タイ)
男三段跳 第4位 大前 歩(2E) 13m57(自己新)
男砲丸投(6.000kg)
第4位 坂野翔哉(1-3) 12m58
(阿南高専新 自己新)
男やり投 第5位 坂野翔哉(1-3) 41m12
第6位 四宮昌幸(2E) 40m97(自己新)
女100mH 第6位 新居鈴菜(3C) 15"79
女走幅跳 第3位 新居鈴菜(3C) 5m25
女七種競技 第3位 新居鈴菜(3C) 3926点
(全国高専新 阿南高専新 自己新)
- ◆第71回四国高等学校陸上競技対校選手権大会
平成30年6月16日～18日(Pikaraスタジアム)
女七種競技 第5位 新居鈴菜(3C) 3891点
- ◆第55回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技
平成30年7月7日～8日(西条市ひうち陸上競技場)
総合 第1位(3連覇) 得点:98.5点
男100m 第1位 谷 亮磨(4C) 11"48(自己新)
男200m 第1位 伊丹 航(4E) 23"50(自己新)
男400m 第1位 伊丹 航(4E) 52"37
男800m 第2位 野口佑大(4C) 1'59"80
男1500m 第3位 野口佑大(4C) 4'14"76
男4×100mR 第2位 44"76
谷(4C)、伊丹(4E)、原(2C)、四宮(2E)
男4×400mR 第3位 3'35"07
大前(2E)、野口(4C)、谷(4C)、伊丹(4E)
男走幅跳 第2位 谷 亮磨(4C) 6m35
男三段跳 第1位 谷 亮磨(4C) 13m82(3連覇)
第2位 大前 歩(2E) 13m68(自己新)
男砲丸投(6.000kg)
第1位 坂野翔哉(1-3) 12m10
第2位 梶野晃生(4E) 11m83



第55回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技
総合優勝[3連覇]
平成30年7月7日～8日(西条市ひうち陸上競技場)

男円盤投 (1.750kg)

第1位 坂野翔哉 (1-3) 31m18

女100m 第1位 藤井佑衣 (3Z) 13" 17 (2連覇)

女800m 第3位 新居鈴菜 (3C) 2' 40" 25

女走幅跳 第2位 新居鈴菜 (3C) 4m83

女砲丸投 第2位 新居鈴菜 (3C) 8m68

◆第73回国民体育大会徳島県選手最終選考会

平成30年5月4日～5日 (ポカリスエットスタジアム)

男少年共通走高跳 第3位 岩佐隼東 (1-4) 1m70

男少年A棒高跳 第1位 谷 知篤 (2C) 4m00 (自己新)

男成年三段跳 第1位 谷 亮磨 (4C) 13m87

男少年共通三段跳 第3位 大前 歩 (2E) 13m27

男少年共通円盤投 (1.750kg)

第3位 坂野翔哉 (1-3) 31m31 (自己新)

◆第66回四国陸上競技選手権大会

平成30年8月18日～19日 (ニンジニアスタジアム)

男5000mW 第6位 島田史也 (4M) 23' 19" 62

◆第53回全国高等専門学校体育大会陸上競技

平成30年8月18日～19日 (えがお健康スタジアム [熊本])

男子総合 第7位 得点: 31点

男棒高跳 第4位 谷 知篤 (2C) 4m00 (自己タイ)

男走幅跳 第7位 谷 亮磨 (4C) 6m60

男三段跳 第2位 谷 亮磨 (4C) 14m08

第3位 大前 歩 (2E) 13m93 (自己新)

男砲丸投 (6.000kg)

第2位 梶野晃生 (4E) 13m10

(阿南高専新 自己新)

第5位 坂野 翔哉 (1-3) 12m52

女子総合 第7位 得点: 22点

女100m 第3位 藤井佑衣 (3Z) 13" 26

女200m 第4位 藤井佑衣 (3Z) 27" 10

女100mH 第2位 新居鈴菜 (3C) 15" 36

女走幅跳 第5位 新居鈴菜 (3C) 5m11

◆第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会徳島県選手選考会

平成30年8月25日 (ポカリスエットスタジアム)

男走高跳 第3位 岩佐隼東 (1-4) 1m75 (自己タイ)

◆第59回鳴門市陸上競技選手選大会

平成30年9月9日 (ポカリスエットスタジアム)

男走高跳 第2位 岩佐隼東 (1-4) 1m70

◆第48回徳島県高等学校新人陸上競技大会

平成30年9月16日～17日 (ポカリスエットスタジアム)

男子総合 第6位 得点: 51点

男子フィールド 第1位 得点: 45点

男110mH 第4位 吉本磨生 (1-3) 16" 87

男走高跳 第4位 岩佐隼東 (1-4) 1m70

男棒高跳 第1位 谷 知篤 (2C) 4m00 (自己タイ)

第4位 高橋愛一郎 (1-4) 2m20

男走幅跳 第3位 大前 歩 (2E) 6m50

男砲丸投 (6.000kg)

第2位 坂野翔哉 (1-3) 12m76 (自己新)

男円盤投 (1.750kg)

第4位 坂野翔哉 (1-3) 31m36 (自己新)

男やり投 第3位 四宮昌幸 (2E) 41m59 (自己新)

◆第6回国士館大学競技会

平成30年9月22日～23日 (国士館大学多摩陸上競技場)

男5000mW 第2位 島田史也 (4M) 21' 53" 64

◆第20回四国高等学校新人陸上競技選手権大会

平成30年10月13日～14日 (ポカリスエットスタジアム)

男棒高跳 第7位 谷 知篤 (2C) 4m10 (自己新)

◆第7回徳島陸上競技秋季カーニバル

平成30年11月3日 (ポカリスエットスタジアム)

男棒高跳 第1位 谷 知篤 (2C) 4m00

男三段跳 第2位 大前 歩 (2E) 13m93 (自己タイ)

第3位 谷 亮磨 (4C) 13m60

男砲丸投 (7.260kg)

第2位 梶野晃生 (4E) 11m74

(阿南高専新 自己新)

男砲丸投 (6.000kg)

第1位 坂野翔哉 (1-3) 12m55

女走幅跳 第3位 新居鈴菜 (3C) 5m15

(阿南高専新 自己新)

◆2018年一般財団法人徳島陸上競技協会優秀選手(高校生)

島田史也 (4M)

(陸上競技部顧問 伊丹 伸)

ラグビーフットボール部

ラグビー部OB・OGの皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。

ラグビー部は今年度をもって活動を休止することになりました。

最後の試合として四国地区高専総体ラグビーフットボール大会 (2018年11月18日、阿南高専ラグビー場) に7人制で参加しました。阿南高専0 - 35 弓削商船 (前半0 - 15、後半0 - 20) で敗退しましたが、最後の試合を楽しむことができました。

多くの方々に支えられてラグビー部は存続してきましたが、前向きに意志をもって活動を休止したいと思います。ありがとうございました。

(ラグビー部顧問 一森 勇人)



水 泳 部

今年度は、四国地区高専体育大会水泳競技を徳島のJAバンクちよきんぎょプールで開催しました。屋外プールなので悪天候の影響を受けましたが、プログラムを急ぎょ短縮したりしてなんとか開催できました。今年度の部員はわずか3名でリレーに出場できなかったのが残念でしたが、それぞれ個人競技で活躍しました。低学年選手は、インターハイ（日本高等学校選手権水泳競技大会）に9年連続で出場でき、高学年選手は、3年連続で国公立大学選手権へ出場できました。平成30年度の主な活動をお知らせします。

主顧問：松本高志 副顧問：笹田修二

◆第53回全国高等専門学校体育大会水泳競技

400m 自由形	第3位	溝木隆太 (5I)	4:20.01
200m バタフライ	第1位	奥田真也 (3M)	2:07.73
100m 背泳ぎ	第1位	奥田真也 (3M)	59.62



◆第55回四国高等専門学校体育大会水泳競技

400m 自由形	第1位	溝木隆太 (5I)	4:24.87
	第2位	矢野純平 (1-2)	4:37.37
800m 自由形	第1位	矢野純平 (1-2)	9:07.90
100m バタフライ	第1位	奥田真也 (3M)	58.67
200m バタフライ	第1位	奥田真也 (3M)	2:11.09
100m 背泳ぎ	第1位	奥田真也 (3M)	1:00.85
200m 個人メドレー	第2位	矢野純平 (1-2)	2:27.65

◆第58回徳島県高等学校総合体育大会水泳競技

100m バタフライ	第1位	奥田真也 (3M)	57.95
200m バタフライ	第1位	奥田真也 (3M)	2:12.26
400m 自由形	第3位	矢野純平 (1-2)	2:38.32

◆徳島県高校選手権水泳競技大会

100m バタフライ	第1位	奥田真也 (3M)	57.63
200m バタフライ	第1位	奥田真也 (3M)	2:12.10
400m 自由形	第2位	矢野純平 (1-2)	2:39.86

◆第69回四国高等学校選手権水泳競技大会

100m バタフライ	第2位	奥田真也 (3M)	57.18
		(インターハイ出場決定)	
200m バタフライ	第2位	奥田真也 (3M)	2:06.64
		(インターハイ出場決定)	

◆第65回 全国国公立大学選手権水泳競技大会出場

奥田真也 (3M)

◆第86回 日本高等学校選手権水泳競技大会

溝木隆太 (5I)

(水泳部顧問 松本高志)

サッカー部

サッカー部OB・OGのみなさま、お元気でご活躍のことと存じます。サッカー部の現在の部員数は選手・マネージャー含めて、55名で活動しています。

サッカー部では高学年（5年生、4年生）の中心のチームと低学年（3年生、2年生、1年生）の中心チームで出場できる大会が決まっています。今年度の高学年チームの成績は四国高専大会3位で、残念ながら全国大会には出場できませんでした。一方で、低学年のチームの成績は高校総体初戦敗退で、選手権予選も初戦敗退でした。また、低学年の徳島リーグでは昨年1部リーグに昇格したのですが、残念ながら1年で2部リーグに降格することが決定し、非常に悔しい1年でした。来シーズンはまた1年で1部リーグに戻ってこられるよう、日々の練習に精進したいと思います。

今後ともOB・OGのみなさまにはご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

(サッカー部顧問 園田昭彦)



…文化部…

吹奏楽部

部員	計20名 5年生3名、4年生4名、3年生2名 2年生5名、1年生6名
顧問教員	錦織浩文（一般教養） 安野恵実子（情報コース）
練習時間	月～金曜日の放課後(14時30分～16時30分) 合奏練習は主に火・木曜日
練習場所	学生集会所（第2体育館横）

平成30年度の活動を振り返ってみます。

4月5日 入学式

「アルセナール」「君が代」「校歌」「ハレ晴れユカイ」

7月19日 室内コンサート

「Zip-a-dee-doo-dah」「Tequila」「J-BEST'17」

11月10日～11日 蒼阿祭（阿南高専第一体育館）

「ヤングマン」「シンデレラガール」「HANABI」

「Lemon」「This Is Me」など

12月16日 四国地区高専総合文化祭（三豊市文化会館）

「Zip-a-dee-doo-dah」「Tequila」「This Is Me」

「J-BEST'17」「ヤングマン」

1月20日 徳島県アンサンブルコンテスト出場

管打楽器四重奏（Cl. Hr. Eup. Per.）

「劇音楽「アブデザラザール」組曲より」

1年生の入部があり、バンドとしての活気を少し取り戻しました。

11月の蒼阿祭では、OGに演奏に加わっていただきました。蒼阿祭の演奏に参加を希望される方は、顧問教員、部員までぜひご連絡ください。

12月の四国地区高専総合文化祭、今年度は審査が復活。頑張りましたが、上位3位の内に入ることはできませんでした。審査員の講評には「打楽器を中心としたテキーラはとてもはっきりとしたリズム、メロディ、ハーモニーで楽しめましたし、ゆっくりの曲では、細かい和音にも気を配った、ていねいな演奏で表現の幅が広いバンドだと感じました」とありました。

1月のアンサンブルコンテストの結果については、原稿締切の関係で、次号にて報告することといたします。なお、昨年度のアンサンブルコンテストは銅賞でした。

（吹奏楽部顧問 錦織浩文）

茶 道 部

茶道部OB・OGの皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。茶道部は現在部員20名（専攻科生1名、5年2名、4年7名、3年4名、2年2名、1年4名）で活動しています。

学寮の教養講座のお手伝い（月曜の夜）を中心に、毎週2回ずつ、高志会館2階和室で部員たちはお点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林初音先生も来校されて、熱心にご指導いただいています。また、茶道部OBの桑村憲治寮務係長にもいろいろご助言いただいております。顧問は私（藤居）のほか、機械コースの大北裕司先生が引き続き担当しています。

以下、今年度の行事を報告します。まず、前期は、恒例となった春のチャリティー茶会を実施しました。昼休みということもあり、例年通り、多くの教職員や学生に参会していただきました。また、ドイツから来た短期留学生2名も在校中は熱心にお点前に参加してくれていました。

後期に入って、11月の蒼阿祭のお茶会では、林先生のお世話で女子学生が和服でおもてなしをいたしました。今年は2名のみで例年よりは少数精鋭でした。2日間で約500名にのぼる方々がご来会下さいました。

12月には総合文化祭（香川高専詫間キャンパス主催）の

お茶席も実施いたしました。かなり前から新居浜の茶道部がなくなっていました。今回は弓削も不参加で徐々に参加校が減ってまいりました。やや寂しい気もいたします。

その中で本校は亀井先生・林先生のご指導のもと、相変わらず和気藹藹の雰囲気の中で、みな一所懸命にお点前の稽古に励んでいます。

学寮の教養講座以外の今年度の茶道部の主な活動状況です。

- ・4月 春のチャリティー茶会
- ・11月 蒼阿祭 お茶席
- ・12月 四国地区高専総合文化祭
（香川高専詫間キャンパス主管）お茶席
- ・1月 初釜チャリティー茶会（予定）

部 長 小林七海（情報コース4年）

顧 問 藤居岳人（一般教養）、大北裕司（機械コース）

今後ともOB・OGの皆さまにはご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（茶道部顧問 藤居岳人）

プログラミング同好会

プログラミング同好会のOB・OGの皆様、近年ITの普及はめざましく、ご活躍のことと思います。今年度は、プログラミング同好会として、全国高専プロコンにて、過去最高の成績を収めることができました。今年度の全国高専プロコンは阿南高専として初めて全国プロコンの主管校を担当し、徳島市のアスティとくしまで開催されました。本校は課題部門で2案、自由部門で1案が予選通過し、競技部門と3部門4チームが出場しました。本校のプログラミング同好会メンバーは、主管校、地元開催ということで入賞目指して一丸となって取り組みました。学生達の努力の結果、全国高専プロコン大会3部門で、それぞれ阿南高専として過去最高の賞を受賞することができました。

第29回全国高専プロコン阿南高専が出場した4チームの成績は次の通りです。

競技：3位入賞（初）

課題部門：「やまおくのほそみちー見張り灯籠で安心安全ー」
優秀賞（初）と日立製作所企業賞のW受賞

課題部門：「Star Galleryー素敵なきら星を見に行こうー」
さくらインターネット企業賞（初）

自由部門：「サーモマイスターーIoTでハウス換気判断支援ー」
特別賞（初）

「やまおくのほそみちー見張り灯籠で安心安全ー」は、自然の山道を活かしたイベント支援システムで、イベント参加者が持つBLEタグを検知して、参加者の遅れ情報を一覧できるシステム。「Star Galleryー素敵なきら星を見に行こうー」は、星空をテーマにし、遠隔で天体望遠鏡と高感度カメラを操作可能で星空を配信できるシステム。「サーモマイスターーIoTでハウス換気判断支援ー」は、農家向け環境センサ活用システムで、それぞれ完成度を高めて、プレゼンテーション、デモ審査に臨みました。

競技部門は、フィールド上での占有陣地ポイントを競う陣取りゲームで、戦術をプログラムで判断し、より多くのポイントを獲得する対戦形式で行われました。相手の動きを随時入力しながら最高得点を目指すアルゴリズムのプログラム完成度が高く、準決勝で、今回優勝した強豪校仙台高専名取キャンパスに惜しくも敗れ3位となりましたが、阿南高専としては過去最高の競技成績を獲得できました。

学生達は、今後も上位入賞を目指したいと意気込んでいます。今後とも変わらぬ皆様からのご声援・ご協力よろしくお願ひします。

（プログラミング同好会顧問 吉田 晋）



参加全4チーム受賞

平成30年 悠久同窓会総会

平成30年8月12日



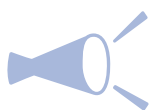
平成30年8月12日 林 政憲氏講演会



今回の悠久同窓会総会に出席された方々です。

支 部
だより

悠久東京支部同窓会



悠久同窓会東京支部「青梅一泊会」(平成30年度)報告

昭和43年度電気 相木 隆 義

悠久同窓会会員の皆様、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。

毎年恒例となっております青梅一泊会ですが、今年もいつものメンバーが集まり、ゴルフ、温泉と宴会及び観光を楽しみ参加メンバー相互間で懇親を深めましたので、その報告をさせていただきます。

もともとこの青梅一泊会は、青梅に在住の1E増田さんを囲みゆっくりと温泉に入り一泊して思い出を語り合うこと目的に1E石田さんが幹事のお役目を務められ1期生を中心に毎年秋に開催されてきており、今年は残念ながら1E増田さんは欠席されましたが、数えて6回目となるそうです。今回はいつも開催している青梅地区から初めて足を延ばし、「磯部温泉の湯と世界遺産富岡製糸場の見学」を中心に開催することとなりました。日程は9月28日(金)

～29日(土)の2日間をかけて実施し、参加者は1期生6名、2期生3名、4期生3名の総勢12名、そのうちゴルフ参加は2組8名でした。いつものメンバーの他に今年も1M庄野さん、4E楠田さんのお二人が新たに参加され、それぞれ各自の近況やその他非常に貴重な話を語り合うことができ有意義な時間を過ごすことが出来ました。

まずゴルフ組は、隣町の藤岡市にある緑野(みどの)カントリークラブに当日朝集合して快晴で絶好のゴルフ日和のもと今回初めてコンペ形式で行われました。参加者の内訳は1期生4名、2期生と4期生それぞれ2名の8名で、第1組を1期生、第2組を2期生と4期生の合同メンバーとした対抗形式となりました。このゴルフ場は、距離6,310ヤード(パー72)の起伏にとんだ丘陵コースで池とバンカーを適切に配置した地形を最大限に生かして作ら

れたコースのように感じました。優勝、準優勝及びニアピン4ホールを表彰対象としたコンペ結果は、ペリア方式を採用して集計したのですが、優勝は1E井内さん（Gross 89、Net 74.6）、準優勝は1M庄野さん（Gross 93、Net 76.2）という結果で、ニアピンもすべて1期生の方々が獲得して先輩組の完勝という結果でした。

ゴルフ終了後、各自隣町の安中市にある、今年の青梅一泊会メイン会場である磯部温泉「かんぼの宿 磯部」へ移動して、まずは入浴ということで温泉につかりゴルフや日頃の疲れを癒しました。調べてみると磯部温泉は、明治の児童文学者・巖谷小波（いわや さぎなみ）が磯部温泉を訪れて昔話「舌切り雀」を書き上げたことから、日本昔ばなし「舌切り雀」伝承発祥の地とも呼ばれているらしいです。また、江戸時代に温泉付近の境界を巡る訴訟があってその時の判決文に添えられた地図に温泉記号があったことから、それ以来「温泉記号」発祥の地とも謳うようになったということです。磯部温泉の成分は重曹食塩泉で、特に神経痛・胃腸病に効能があるそうで、名物は豊富な鉱泉を利用して作られる磯部せんべいとして全国にその名が知られているとのことで、確か旅館のお茶請け菓子に出されていたように思います。

さて、ここで温泉宿直行組の4名とも合流、簡単な自己紹介と挨拶をして全員で約1年ぶりの再会を確認しひと時の懇談に花が咲きました。また、同時にゴルフコンペ成績発表と表彰式があり、完勝した1期生各人からその成績自慢が述べられました。一方、後方では、完敗した後輩組から、先輩への村度の結果（？）の賜物である（本当はガチ勝負で先輩方は一枚も二枚も実力は上のように思いますが…）とのささやきが聞こえていました。さらにゴルフをしなかった方々も含めて、今日のゴルフの自慢話、反省の弁、批評・プレイ解説などの話で多に盛り上がりました。

そしていよいよ宴会場へ場所を移しての恒例大宴会の開会となりました。すでに2階の宴会会場には、秋味満載の彩り会席が所狭しと並べられており、上州名物の食彩を使用した絶品料理ばかりとなっていました。まず、毎年ご苦勞いただいている1E石田さんから開会の言葉を賜り、続いてこれも恒例となっている初参加の先輩1M庄野さんから乾杯の挨拶をいただきまして、宴会はスタートしました。豪華料理に加え、飲み物は生ビール、日本酒、赤白ワイン、その他のソフトドリンクなどをたっぷり、しかもどの渴きもあつた理由からか何故か急ピッチで飲み進みました。しばらく個々の懇談が続いた中、いつものように



ひときわ声高の2M乾さんにご指名が下り、各自それぞれの近況報告が始まりました。近況報告は2期生からスタートしましたので、自然と残り2名の2期生から報告があり、続いて4期生3名、最後に1期生6名と譲り合うこともなく自然と順序が決まり、全員の話をつなぐこととなりました。この間、約1時間程度経過したと思いますが、印象に残っていますのは、近況報告は途切れることなく次々と引き継いで行われ参加された皆さまは人生経験豊かで幸せな人生を送っているのだと強く感じた事があります。残念ながら筆者はアルコールに不覚を取り（普段はそうでもないのですが今日は何故か？）皆さまの近況報告を詳細にレポートできない状況となってしまっていました。

18時30分から始まりました大宴会もいつの間にか予定時間の21時が過ぎようとしていました。旅館の仲居さんから指摘を受けて初めて終了予定時刻が過ぎているのに気付く全員で驚く中、宴会中締めも早々に終了の運びとなりました。このままの流れで全員が今年は1期生の部屋に集まり2次会が始まりました。この宴は深夜遅くまで続いたとのことなのですが、筆者は相変わらず記憶が定まらない状況が続き、気が付きましたら自室へ移動して就寝していたようです。

さて、翌日は世界遺産である富岡製糸場とその構成資産で養蚕業の研究・教育機関であった高山社（高山長五郎が明治17年に設立）を観光見学する予定でしたが、あいにくの雨模様で朝方から小雨が降り続いていました。何とか雨が止んでくれないかと祈りつつ、朝の入浴とバイキング形式の朝食をいただきました。いよいよ出発時刻となっても残念ながら雨は止まず、5台の車に分乗して最初の見学地「富岡製糸場」へ向かいました。ここで1名の方は、所用のため帰路に就くということで、途中近くのJR駅までお送りして、予定した市営駐車場へ移動しました。すると奇跡的に雨が小雨となり駐車場から歩いて富岡製糸場へ到着するころには雨は一旦止んでしまいました。参加者全員の日頃の行いの結果だと思います。

富岡製糸場は、ご存知の通りフランスからの技術導入から日本独自の自動繰糸機の実用化まで製糸の技術革新が絶え間なく行われてきた製糸場で、高品質な生糸の大量生産に貢献した絹産業に関する世界遺産であります。広大な土地に、置繭所、繰糸所、寄宿舎、診療所、病室などなどあらゆる施設があり、多くの工女の方々（当時は旧士族などの娘が主体）が住み込みで働いていたそうです。明治5年（1872年）から昭和62年（1987年）までの115年間操業し続けた製糸場で、官営工場として創業した工場はやがて民間の企業へ払い下げとなりました。しかし、操業停止までの115年間にわたり休むことなく製糸工場として稼働し続けました。一貫して生糸の生産が行われて来たことと操業停止後も建造物がよく維持管理されてきたことにより、今も創業当初の状態が美しく保存されています。我々は特別に専用の解説員によるガイドツアーをお願いして細かく説明を受けました。

約2時間の富岡製糸場見学を終えて、また車5台に分乗し昼食会場の「こんにゃくパーク」へ移動することとなり

ました。こんにゃくパークは富岡製糸場から10kmほど離れた車で約15分の場所で、無料こんにゃくバイキングが体験できる日本最大級のこんにゃく生産工場です。また降り出した小雨の中4台の車は順調にこんにゃくパークの専用駐車場に到着して、入り口付近で全員が揃うまで待機していました。入り口前広場には、五つの湯を無料で楽しめる足湯ゾーンやフードマーケット（産直野菜などの販売）ゾーンなどがあり、こんにゃく以外でも十分楽しめる総合パークでしたが、今日は雨のため屋外ゾーンは少し無理があり諦めました。4台の車は11時半ごろには到着して、お昼時の混雑を避けてこんにゃくバイキングを楽しめると期待に胸を膨らませながら残り1台の車を待っていました。ところが、残り1台の車が一向に到着しません。最初の10～15分は、遅いねと冗談っぽくつぶやいていたのですが、30分経っても到着せず、やむを得ず電話連絡するとあと1km程度で到着するとの連絡がありました。それでもなかなか到着せず心配もあり再度電話連絡したところ、どうやら車両のナビ(?)に問題があった様子で1時間くらい遅れて無事到着いたしました。結局のところ遅れた詳細のいきさつは明らかにされず、全員で無事の到着を喜んだ、という事件でした。

こんにゃくバイキングは、無料食べ放題であるのとカロリーオフで美味しいということもあって人気のイベントであり、土曜日ということもあり満員の盛況でした。私たちも昼食代わりにいろいろな味に料理されたこんにゃく料理を試食して、レストラン横の名産品販売コーナーで自宅及びその他へのお土産を調達いたしました。

当初計画では、これからやはり養蚕業に関係する高山社を見学する予定でしたが、おりしも台風の影響もあり雨が強くなってきましたので、今年の青梅一泊会はここで早めの解散をすることとなりました。来年の再会を祈念しながら、挨拶もそこそこに三々五々お別れすることとなりました。

1E石田さん、毎年の青梅一泊会の企画・幹事のご尽力、そして1E井内さん、親睦ゴルフの企画・幹事のお役目、それぞれ大変お疲れ様でございました。参加者一同、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。参加された皆様、来年もまた元気で会いましょう。

参加者（敬称略）12人

- 1期生：石田徳平、井内清治、喜多明徳、下條哲世
矢野健二郎、庄野新一
2期生：乾 寛、湯浅尋夫、相木隆義
4期生：敏謙次朗、畑山芳文、楠田幸司



東京支部悠久同窓会開催について

支部長（昭和48年度機械）高橋保人

悠久東京支部同窓会を平成30年4月14日（土）午後1時から、いつもの新宿住友三角ビル47階住友クラブにて開催しました。例年と同じ場所で継続できるのも1期生の喜多明徳氏のおかげです。毎年会場の確保をして頂き、感謝の一言です。

当日は、8期生の楠田富生氏より乾杯の発声の後、母校の寺沢校長先生の挨拶に始まり、徳島県東京事務所の利徳副本部長、更に阿南東京事務所の柏木所長に挨拶をお願いしました。更に、田中達治先生には毎年徳島から参加をして頂いています。若い卒業生を誘って仲間づくりにお骨折り頂いております。師弟愛が伝わってきます。今回は、1期生から47期生まで総勢42名の集まりとなりました。大いに盛り上がった1日になりました。

また、平成30年11月には悠久同窓会50周年記念式典が開催されるということもあり、はるばる徳島から西野賢太郎氏と横手久典氏の参加がありました。式典の紹介と参加をお願いするために来て頂きました。ご苦労様です。更に、関西支部より久米啓介氏に参加頂きました。今後の悠久同窓会の進め方などの参考になればと思います。

いつものように会員メンバーの近況報告を行いました。2期生の宮城進氏（山崎辰三郎）には前進座公演の紹介があり、口上を披露して頂きました。近況報告も終わり、恒例のビンゴゲームには、進行役として、30期生の中野愛子氏と42期生の谷澤彰紀氏にお願いしました。賞品には、住友クラブオリジナルのワインや、会員からは洋服の青山の割引クーポン券、更には当日の東京ドームでの巨人戦のチケットなどが提供され、ビンゴを当てた人は、喜んでいたのが印象的でした。全員盛り上がる中、「アッ」と言う間に時間が過ぎてしまい、最後に8期生の森岡和博氏に締めをやって頂きました。

次回も4月第2土曜に元気な顔で会うことを約束し散会となりました。散会後も名残惜しい同窓会の連中が二次会に消えていったことをお伝えしておきます。

今回は4名が初めて参加しました。関東にいる卒業生は年に一度ですので、是非参加し親睦を深めて頂ければと思っています。

次回同窓会は、2019年4月13日（土）、新宿住友三角ビルにて行う予定です。時間については別途案内いたします。

近況報告

高橋 寛治 (47S) 平成 25 年度

Sansan 株式会社で人工知能に関する研究開発を行っています。ラジオ出演や講演も行っていきます。

武田 美咲 (44S) 平成 22 年度

長岡技術科学大学大学院 博士後期課程に在学中です。学科は生物統合工学専攻で、計算論的神経科学を学んでいます。

尾田 晃 (36S) 平成 4 年度

日立製作所 産業流通ビジネスユニットで技術営業をやっています。最近転勤続きで、3年連続です。

島 圭介 (36S) 平成 14 年度

横浜国立大学大学院 工学研究院で准教授をしています。制御情報の基礎を生かして情報システム、ロボット工学などの教育・研究を行っています。

大久保 勝彦 (30M) 平成 8 年度

神奈川県立磯子高等学校で一介の教諭をやっています。ゆとり世代を相手に日々悪戦苦闘してます。

速水 隆夫 (10E) 昭和 51 年度

引継いで特許調査の仕事してます、忙しく!!それでも年に1~2度妻と海外旅行を楽しめるようになりました。しばらくは、こんな日々が続く予想です…。

林 祐貴 (26M) 平成 4 年度

東京・東村山で自営業をしております。楽ではありませんが(笑)常に新しいモノ・コトを探してウロウロしてます。ロボコンの黒歴史と呼ばれた時代の第一人者かも(爆)

森岡 和博 (8M) 昭和 49 年度

昨年8月に4年余り駐在しました釜山から帰国して久しぶりに参加しました。やっぱり高専悠久同窓会はいいですね。これからも参加します。

佐藤 忠氏 (2E) 昭和 43 年度

完全にリタイア。スポーツを続けます。

喜多 明德 (1M) 昭和 42 年度

ソフトボールを創部して35周年目です。区民大会の一般の部・決勝戦は連休明けの予定です。それと多くの悠久仲間を東京・阿南ふるさと会にお誘いしたいと思っています。

天羽 稔 (5M) 昭和 46 年度

と走り回っています。

佐 幸 智 行 (23M) 平成 1 年度

住いも仕事も川崎市で15年目。毎日忙しく仕事と家庭サービスです。

森 宜彦 (12E) 昭和 53 年度

ITの仕事にどっぷりつかっています。手のモデルもやっています。



悠 久 東 京 支 部

小林 正興 (13E) 昭和 54 年度

次男が今年3月に大学を卒業しましたが、まだ楽はできません。

久米 啓右 (7E) 昭和 48 年度

悠久関西支部のお世話をしています。東京支部の同窓会の状況を視察にきました。

西野 賢太郎 (2E) 昭和 43 年度

畑山 芳文 (4E) 昭和 45 年度

昨年6月で、会社の役員を退任して少し自由な時間がふえました。サッカーに力を入れていきます。

赤池 一夫 (7M) 昭和 48 年度

去年との変化が1つ。引越しました。鳴門の実家と同じ、海までの距離の家に。これで、目標の1つを達成。

榎田 富生 (8M) 昭和 49 年度

2017/12Eで退職。好きなバラ作りとテニス・ゴルフでSecond LifeをEnjoy。今年は芸術?にトライしようかと。

梶村 宜弘 (35S) 平成 13 年度

富士スピードウェイのライセンスをとって車で走ります。

山崎 辰三郎 [宮城 進] (2M) 昭和 43 年度

とうとう、秋には70才の大台を迎えます。今年末の二期生同窓会が楽しみです。機会が少なくなりましたが、まだまだ舞台に出ています。

乾 寛 (2M) 昭和 43 年度

まるで老人会。でもそれで全く問題なし。毎年1度顔を合わせいろいろグチる。いいねえ〜。

楠田 幸司 (4E) 昭和 45 年度

現役を離れて5年近く経つと、新宿近辺を訪問するのも、悠久会のみの実態です。Jリーグ観戦は相変わらず続けております。

川人 真佐行 (4E) 昭和 45 年度

今年は宮古島へ行って(4月4~6日)スタンド・アップ・パドル・サーフィン(通称サップSUP)という

よろず
伝言板

「各種証明書」の発行事務についてのお願い

卒業生の皆様が、各種資格の取得、就職試験、進学受験、海外出張等をされる場合には、ほとんどの場合、本校に在籍し、または卒業・修了したことについて、各種の証明書が必要です。(卒業・修了・成績・履修・調査書など)これらの証明書を速やかに発行するため、以下のことにご留意・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1. 各種証明書の発行申請について

各種証明書の発行は、「諸証明書発行願」により、学生課教務係へ申し込んでください。

この発行願は、教務係に設置しているほか、学校のホームページからダウンロードすることができます。提出するときには、押印が必要です。

2. 遠隔地からの発行申請について

県外在住など来校するのが難しい場合、下記のものをご郵送して申し込むことができます。

① 「諸証明発行願」:発行願には下記のことを記載してください。

(ア)必要な証明書の種類(卒業証明書・成績証明書等)

(イ)必要部数

(ウ)使用目的・提出先

(エ)氏名(卒業時の名字)

※英文証明書が必要な場合は、パスポートどおりのローマ字表記を併記してください。

(オ)生年月日

(カ)卒業・修了学科

(キ)卒業・修了年月日

② 返信用封筒

(ア)郵便番号・宛先・宛名を記載してください。

(イ)82円切手(必要部数が多い場合は92円か120円)を貼ってください。

速達の場合は280円分を追加してください。

3. その他

①英文証明書や調査書の発行には、少なくとも1週間を要します。また、郵送の場合はさらに3日程度を要しますので、十分な余裕をもって申し込んでください。

②緊急に証明書が必要な場合で直接窓口に来られるときは、事前に電話をいただけますと、お待ちせず証明書を発行できます。

※英文証明書・調査書・高等学校卒業程度認定試験に関する証明書は、即日発行できませんのでご了承ください。

③発行は無料です。郵送の場合は、郵送実費(切手)のみ必要です。

④証明書の氏名は、本校卒業時氏名での発行となります。

各種証明書は、皆様ご自身に関する一身上の極めて重要な意味をもった公文書ですから、発行には慎重な事務手続きを期すとともに、皆様の要望に、円滑に対応できるよう努力いたします。申し込みの際には、上記のことをご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■申請先■

〒774-0017 阿南市見能林町青木265

阿南工業高等専門学校 学生課教務係

電話(0884)23-7133

FAX(0884)22-4232

この“よろず伝言板”は「悠久」の誌上を通じて会員相互の心の絆を深めるために設けたものです。

何でも結構!!ふるって御投稿下さい。

悠久第52号原稿募集 (阿南高专悠久編集部)

阿南高专同窓会誌「悠久」も本号で第51号となります。最近では会員たよりの原稿を集めるのに苦労しています。来年度の52号を充実したものにするため、皆様の楽しい便り、写真、マンガ、イラスト、俳句など、何でもかまいません。どしどし原稿をお送り下さい。量はA4版1枚に収まる範囲程度です(もちろん少ない原稿も歓迎します)。郵送もしくは左記のメールアドレスに添付ファイルにてお送りください。

編集委員一同首を長くして待っています。

編集委員

1 回機械	上 登志男(徳島市)
1 回機械	福 正和(阿南市)
1 回機械	林 岩男(藍住町)
2 回機械	林 政憲(徳島市)
2 回電気	中 清雄(徳島市)
2 回電気	岡 本満(徳島市)
3 回機械	寒 和哲(小松島市)
3 回機械	藤 美廣(徳島市)
3 回電気	荒 敏雄(小松島市)
4 回機械	中 茂樹(徳島市)
4 回電気	平 強一(阿南市)
5 回電気	正 敏雄(小松島市)
5 回電気	森 忠敬(徳島市)
6 回土木	上 豊志(鳴門市)
8 回機械	齋 友和(船橋市)
13 回電気	田 文博(徳島市)
17 回機械	伊 達伸(阿南市)

原稿送り先

〒774-0017

阿南市見能林町青木265

阿南高专内悠久同窓会事務局

メール送付先

dosokai@aman-nc.ac.jp

原稿締切

2019年11月15日必着

阿南高専卒業生数

()内は女子数で内数 平成30年12月31日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科	電気工学科 電気電子工学科	制御情報工学科	土木工学科 建設システム工学科	合計
昭和42	1	80	38 (1)		0	118 (1)
43	2	79	36 (2)		0	115 (2)
44	3	69	31		0	100
45	4	65	36 (1)		0	101 (1)
46	5	54	35		33	122
47	6	81	39 (1)		34 (1)	154 (2)
48	7	67	36 (1)		37	140 (1)
49	8	61	34 (1)		29	124 (1)
50	9	69	32 (1)		35	136 (1)
51	10	61	36		37	134
52	11	82	40		37	159
53	12	67	31		29	127
54	13	71	40		30	141
55	14	66	38		31	135
56	15	64 (1)	38		33 (1)	135 (2)
57	16	61	35		31 (4)	127 (4)
58	17	65	37		26	128
59	18	76	34 (1)		34	144 (1)
60	19	53 (1)	37		32	122 (1)
61	20	75	36		28	139
62	21	59	40		32	131
63	22	71	40		39	150
平成元	23	72	41 (1)		42 (1)	155 (2)
2	24	75	42		32	149
3	25	78	44 (1)		38 (1)	160 (2)
4	26	74	43 (1)		31	148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)	139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)	162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)	149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)	164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)	151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)	161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)	138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)	160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)	149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (10)	32 (5)	129 (25)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)	144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)	163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)	148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (7)	28 (8)	139 (20)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)	139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)	155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)	152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)	135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)	146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)	166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)	152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)	144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	41 (3)	22 (7)	144 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)	148 (25)
29	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	31 (7)	151 (29)
合計		2,765 (39)	1,960 (110)	925 (273)	1,569 (189)	7,219 (605)

平成30年度卒業予定者(52回)

()内は女子数で内数

卒業年度	回数	創造技術工学科 機械コース	創造技術工学科 電気コース	創造技術工学科 情報コース	創造技術工学科 建設コース	創造技術工学科 化学コース	合計
平成30年度卒業予定者	52	40 (2)	24 (1)	38 (8)	23 (9)	25 (11)	150 (31)

(注) ① 平成元年度から機械工学科(2学級)を機械工学科(1学級)と制御情報工学科(1学級)に改組。② 平成5年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。
③ 平成14年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。④ 平成26年度から4学科を創造技術工学科1学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の5コース制に再編。

総会のお知らせ

2019年8月12日、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

講演会

10:30 受付
 11:00～12:00 大西賢治氏による講演会
 演題 「鋼板表面のテクスチャリング技術と
 泡（阿波）踊るピアカップ」

総会

12:00～12:30 総会
 12:30～14:00 名誉教授の先生方との合同食事会

人物紹介

大西賢治氏 プロフィール
 大西賢治 [Onishi Kenji]

略歴

昭和43年4月 阿南高専 土木工学科入学
 昭和48年3月 阿南高専 土木工学科卒業
 昭和48年4月 総合技術コンサルタント株式会社入社
 橋梁設計業務に従事
 昭和49年 大鳴門橋側塔 多柱基礎の設計に従事
 昭和50年～昭和55年 屋久島 安房大橋の設計・施工管理に従事
 昭和58年 明石海峡大橋 主塔基礎1P,2Pの杭・設置ケーソン複合基礎の形式検討業務に従事。
 昭和63年 阪神高速新浜寺大橋(ニールセン橋バスケットハンドルタイプで世界一の橋長)設計に従事、平成4年土木学会田中賞受賞。
 昭和64年 阪神高速西宮大橋の設計に従事
 平成2年3月 総合技術コンサルタントを退社。
 平成2年4月 ダイカ(株)に入社 粉体機器除鉄装置の設計・開発に従事
 平成14年12月 ダイカ(株)の製造部門としてダイカテック(株)を設立(板野郡北島町)
 平成17年4月 粉体付着抑制のための鋼板表面テクスチャリングに関する研究開始。
 同テーマで徳島大学との共同研究開始、翌年F研磨処理として特許取得
 平成22年2月 経済産業省 四国産業技術大賞 最優秀賞を受賞
 平成24年9月 鋼板表面テクスチャリングによる熱交換器の伝熱特性に関する研究開始
 平成27年4月 徳島市川内町に土地を取得・社屋移転
 平成29年4月 経済産業省 戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)採択
 平成30年10月 徳島大学 大学院博士後期課程に入学
 平成30年10月 F研磨処理応用技術による泡(阿波)踊るピアカップで徳島県知事賞を受賞

寄付金募集のお知らせ(阿南高専悠久同窓会)

悠久同窓会会則第13条(本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる)の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久同窓会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送り先 阿南市見能林町青木265 阿南高専内悠久同窓会事務局

振込の場合 郵便局振込
 コンビニ振込
 銀行振込 徳島銀行 阿南支店 普通
 口座番号 8594442
 阿南工業高等専門学校悠久同窓会